

Disclosure 2019

川口信用金庫の現況

平成30年4月1日～平成31年3月31日



未来へつなぐ力 一致団結

 川口信用金庫

目次

■ ごあいさつ	1
■ 金庫概要	2
■ 役員・業務組織図	3
■ 川口信用金庫と地域社会	4～5
■ 中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況	6～9
■ 文化的・社会的貢献活動	10
■ トピックス	11
■ 環境保全活動への取組み	12～13
■ お客様保護等への取組み	14～17
■ お客様本位の業務運営への取組み	18
■ コンプライアンス体制	19
■ ワーク・ライフ・バランス推進への取組み	20
■ 総代会制度について	21～23
■ 業績ハイライト	24～25
■ 平成 30 年度事業の概況	26
■ 自己資本の充実の状況	27
■ 不良債権の状況	28
■ 統合的リスク管理体制	29～31
■ 業務のご案内	32～35
■ 主な手数料一覧	35～36
■ 経営資料編	37～56
貸借対照表	38～39
損益計算書	40～41
■ 開示項目一覧	57
■ 店舗のご案内	58～59
■ 沿革	60

本誌は、信用金庫法第 89 条（銀行法第 21 条の準用）に基づいて作成したディスクロージャー資料（業務及び財産の状況に関する説明書類）です。

経営理念

わが川口信用金庫は、堅実公正な経営に徹し、地域社会の繁栄に奉仕する。

シンボルマークの心



すべての和を基調とし、地域にしっかり根をおろした川口信用金庫を全体の円で表し（台地の赤は地域・外の円はお客様・中の円は金庫・小の円は職員）、川口の「川」をモチーフに表現しております。

表紙の写真

川口市（本店所在地）上空より富士山を望む風景です。

ごあいさつ



会長 日下義章

理事長 木村幹雄

平素より川口信用金庫に格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

当金庫の経営に対するご理解を一層深めていただくため、ディスクロージャー誌「川口信用金庫の現況 2019」を作成いたしました。ご高覧いただければ幸いです。

平成 30 年度の日本経済は、個人消費や公共投資の拡大を背景に堅調な雇用・所得環境が続くなど緩やかな回復基調が続き、世界経済においても米国・ユーロ圏における堅調な景気回復や新興国経済の持ち直しにより緩やかに拡大しました。その一方で、米国政権の政策運営や英国の EU 離脱の影響などの地政学的リスクなど予断を許さない状況でもありました。

こうした経済環境下、平成 30 年度は、新中期経営計画「かわしん 未来への挑戦 100 ～ Second Stage ～」の初年度であり、基本方針として①経営力・内部管理態勢の強化、②支援力・営業力の強化、③人材力・組織力の強化を掲げ取り組みました。具体的には当金庫が金融仲介機能を発揮することにより、創業・新事業支援、成長分野への支援、経営改善や事業性評価、事業承継など金融・非金融の両面からの支援を通じて、地域の中小企業や個人のお客さまが抱える課題を解決する中心的な役割を果たすとともに、お客さまから最初に相談される金融機関を目指して事業を推進してまいりました。

昨年 6 月に日下会長、木村理事長の新体制でスタートした 1 年でありましたが、当期の業績は、預金積金残高が前期比 197 億円増加し 8,489 億円、貸出金残高は前期比 125 億円増加し 4,364 億円と順調に推移いたしました。また、自己資本比率は 10.51%と国内基準である 4%を大幅に上回り、高い健全性を維持することができました。これも偏に皆さま方のご厚情とご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

本年度は、平成から「令和」に元号が変わり、新たな時代の幕開けとなりました。

これからも、当金庫は「地域に根ざし、地域とともに歩む」を原点に、お客さま本位の業務運営に努め、地域やお客さまが抱える課題に真摯に向き合うとともに、役職員一同が一致団結して地域経済の活性化と成長・発展に貢献してまいります。

今後とも皆さま方の一層のご支援、ご愛顧を賜りますよう心からお願い申し上げます。

令和 元年 7 月

会長 日下義章

理事長 木村幹雄

金庫概要 (平成 31 年 3 月 31 日現在)

金庫概要

創 業	大正 13 年 3 月 1 日
出 資 金	21 億 26 百万円
会 員 数	65,770 人
預 金 量	8,489 億円
貸 出 金 量	4,364 億円
常勤役職員数	745 人
本店所在地	埼玉県川口市栄町 3 丁目 9 番 3 号
店 舗 数	埼玉県内 45 店舗



営業地区

埼玉県

川口市 さいたま市 春日部市 越谷市 草加市 蕨市 戸田市 朝霞市 志木市 新座市 和光市
八潮市 富士見市 ふじみ野市 三郷市 所沢市 川越市 上尾市 桶川市 蓮田市 久喜市
狭山市 幸手市 北本市 鴻巣市 鶴ヶ島市 加須市 吉川市 羽生市 白岡市 熊谷市 行田市
(入間郡) 三芳町 (北葛飾郡) 松伏町 杉戸町 (北足立郡) 伊奈町 (南埼玉郡) 宮代町
(比企郡) 川島町 吉見町

東京都

北区 板橋区 練馬区 荒川区 足立区 豊島区 西東京市 (旧保谷市に限る) 清瀬市 東久留米市

主な事業の内容

預 金 業 務	当座預金、普通預金、貯蓄預金、通知預金、定期預金、定期積金、別段預金 納税準備預金、譲渡性預金、外貨預金等の受入れ
貸 出 業 務	①貸 付 手形貸付、証書貸付及び当座貸越 ②手形 の 割 引 銀行引受手形、商業手形等の割引
為 替 業 務	①内国為替業務 送金為替、当座振込及び代金取立等 ②外国為替業務 輸出、輸入及び外国送金その他外国為替に関する各種業務
有 価 証 券 投 資 業 務	預金の支払準備及び資金運用のための国債、地方債、社債、株式等への投資業務
附 帯 業 務	①債務の保証又は手形の引受け ②有価証券の貸付、売買等 ③公共債の引受け等 ④金銭債権の取得又は譲渡等 ⑤短期社債等の取得又は譲渡 ⑥株式会社日本政策金融公庫等の代理業務 ⑦国、地方公共団体等の金銭の収納等 ⑧有価証券、貴金属等の保護預り ⑨振替業 ⑩両替 ⑪取引所金融先物取引等 ⑫国債等公共債及び証券投資信託の窓口販売 ⑬保険商品の窓口販売 (保険業法第 275 条第 1 項により行う保険募集) ⑭当せん金付き証票に係る事務 ⑮信託契約代理店業務 (信託会社：信金中央金庫)

役員・業務組織図

役員一覧

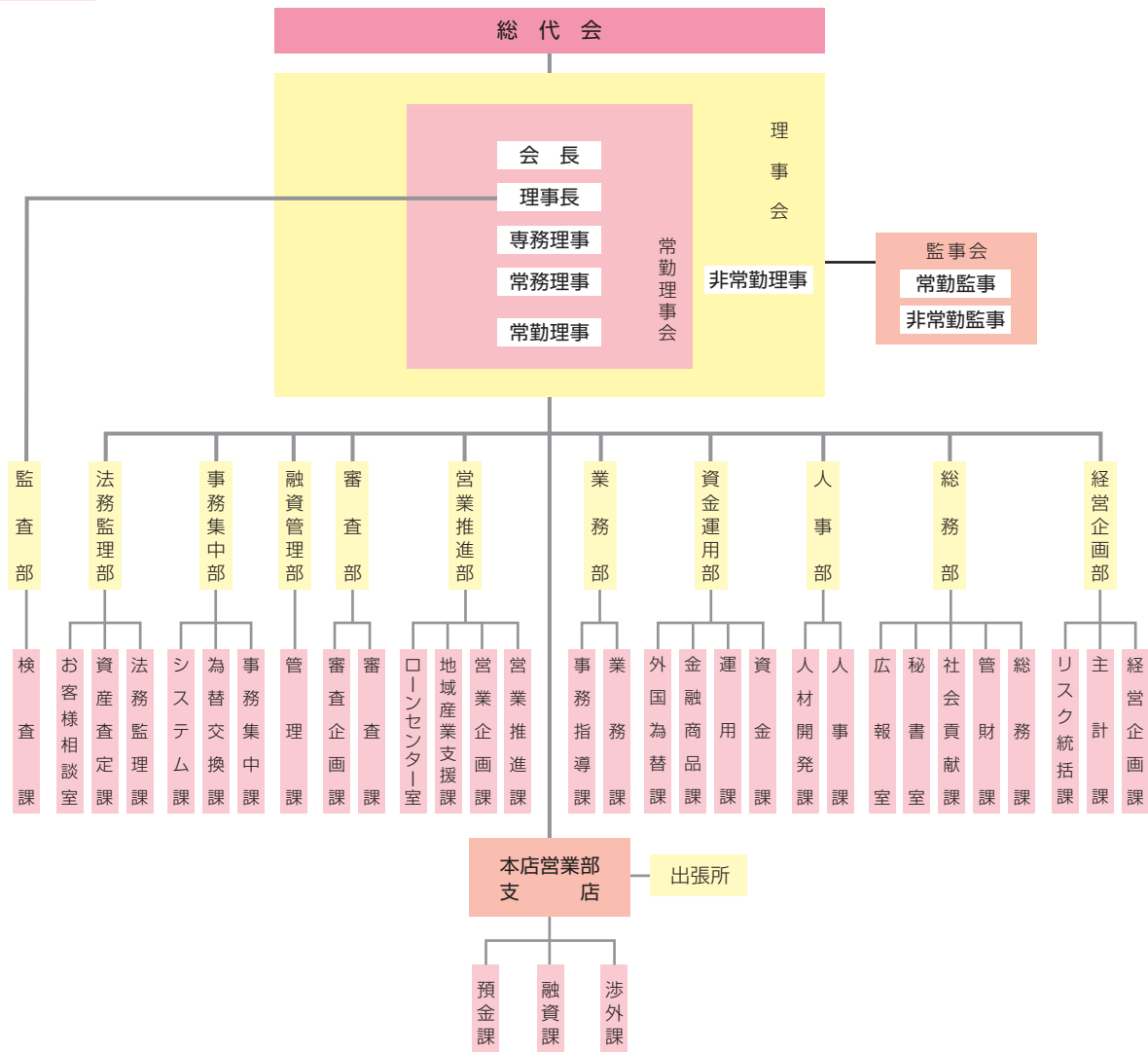
会 長 (代表理事)	日 下 義 章
理 事 長 (代表理事)	木 村 幹 雄
専務理事 (代表理事)	大 木 武 司
常務理事 (代表理事)	飯 田 雅 弘
常務理事 (代表理事)	野 本 幸 男
常勤理事	秋 本 義 弘
常勤理事	高 橋 一 隆
常勤理事	秋 葉 峰 雲
常勤理事	朝 日 基 夫
理 事 (特別顧問)	山 口 泰 男
理 事	服 部 和 義
理 事	遠 山 秀 一 (*1)
理 事	石 川 義 明 (*1)
常勤監事	細 田 俊 行
監 事	駒 英 明
監 事	中 島 由 雅 (*2)



令和元年6月末現在 常勤役員

(*1) 理事遠山秀一、理事石川義明は、信用金庫業界の「総代会の機能向上策等に関する業界申し合わせ」に基づく職員外理事です。
 (*2) 監事中島由雅は、信用金庫法第32条第5項に定める員外監事です。

組織図



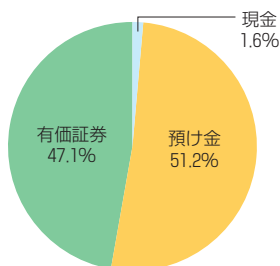
川口信用金庫と地域社会

川口信用金庫は、「堅実公正な経営に徹し、地域社会の繁栄に奉仕する」を基本理念とする相互扶助を目的とした協同組織の金融機関です。地域のお客さまからお預かりした大切な資金（預金積金）は、地域のお客さまにご利用いただき、「地元の繁栄、豊かな暮らしづくりのお手伝い」をモットーに、地域の皆さまとともに歩んでまいりました。「かわしん」と地域の皆さまとの絆、「つなぐ力」をより深いものにし、地元になくってはならない信用金庫として、持続的発展が可能な地域社会づくりに貢献してまいります。

貸出金以外の運用 に関する事項

お客さまからお預かりした預金積金のうち、貸出金以外の資金（余資）につきましては、安全性と収益性に十分に配慮して、預け金や国債・地方債を中心とした有価証券などによる運用を行っております。詳細については P50 をご覧下さい。

余資運用残高構成比



貸出金以外
の運用
4,679 億円

かわしん
川口信用金庫

常勤役職員数	745 名
店舗数	45 店舗
総資産	9,225 億円

(計数は、平成 31 年 3 月末現在)

社会貢献活動



社会貢献活動

職員一人ひとりが地域社会の一員としての自覚を持ち、社会・地域貢献活動や環境保全活動に積極的に取り組んでおります。詳しくは P10～P13 をご覧下さい。

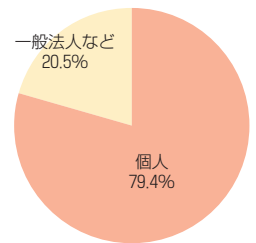


預金積金に関する事項

(地域からの資金調達状況)

お客さまの生活設計や着実な資産づくりのお手伝いをさせていただくため、新商品の開発や各種サービスの一層の充実に向けて努めてまいります。またお客さまの多様化する運用ニーズにお応えするため、各種投資信託、個人向け国債、生保・損保商品の販売なども行っております。預金の内訳についてはP47、取扱商品についてはP32をご覧ください。

預金人格別残高構成比



出資金
21億26百万円

預金積金
8,489億円

お取引先への
支援等

貸出金
4,364億円

地域のお客さま 会員の皆さま

預金口数	777,837口
会員数	65,770会員
出資金	21億26百万円

お取引先への支援等

(地域との繋がり)

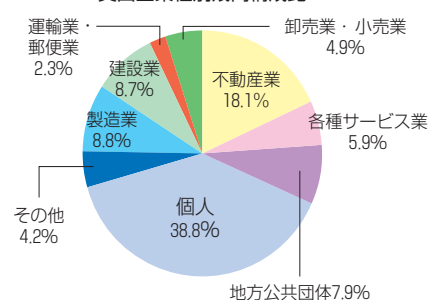
当金庫では、地域産業支援課を設置して、お取引先企業の経営改善や財務改善のサポートを行い、地域社会の活性化に積極的に取り組んでおります。また、経営塾や後援会などの活動を通じて会員相互の親睦を図っております。経営支援の取組み状況についてはP7～P9をご覧ください。

貸出金に関する事項

(地域への資金供給状況)

地域社会の繁栄に奉仕するという基本方針に基づき、信用金庫業務の公共的使命を踏まえながら、お客さまの幅広い資金ニーズに迅速・的確にお応えするよう努めております。取扱商品についてはP33、貸出金の内訳についてはP48をご覧ください。

貸出金業種別残高構成比



中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況

○ 地域密着型金融に関する基本方針

地域密着型金融「リレーションシップバンキング」は、地域に根ざし、地域と共に歩む「かわしん」の原点であり、恒久的な取組みとして推進しております。

平成30年4月からの新中期経営計画「かわしん 未来への挑戦 100 ～ Second Stage ～」においても、重要な位置を占める施策として推進することとしております。

取組み方針

「かわしん」は、地域のお客さまのニーズにあった金融サービスの提供を通じて、「地域経済の発展、地域の皆さまとの共存・共栄」を社会的使命としております。

地域経済の発展、地元の中小企業への円滑な資金供給、新たな企業の育成、経営改善、コンサルティング機能の更なる発揮や事業性評価に基づく中小企業の成長、発展、再生支援等の取組みを強化してまいります。

地域密着型金融の推進計画（平成30年度）

計画期間

平成30年4月から平成31年3月まで

計画期間における重点的な取組みについて

- (1) 取引先企業に対するコンサルティング機能の発揮
 - コンサルティング機能を発揮するための態勢整備
 - ライフステージに応じた支援【創業・新事業支援等】
 - ライフステージに応じた支援【経営改善・事業再生支援等】
- (2) 地域・社会貢献充実への取組み
 - 地域・社会貢献の充実
 - 金融機能・サービスの充実（利便性と満足感、安心感、充実感）
 - 地域の活性化～地方創生への取組み～
- (3) 地域やお客さまに対する積極的な情報発信
 - 地域の皆さまに当金庫の各種取組みをディスクロージャー誌、ホームページ等により積極的に情報発信



当金庫の金融仲介の取組みについて

当金庫の経営理念である「堅実公正な経営に徹し、地域社会の繁栄に奉仕する」を具現化するため、地域経済の発展に向け、お取引先の本業支援や経営改善提案などに取組んでおります。

平成28年9月に金融庁から「金融仲介機能のベンチマーク」が公表され、金融機関はベンチマークへの積極的な取組みを行うことにより、金融仲介機能の質を高め、企業の価値向上や生産性向上などに資することが求められております。

当金庫はベンチマークを活用し、金融仲介機能の強化を図り、お取引先のニーズや課題に応じた融資及びソリューション（解決策）の提供などに取組み、地域経済の活性化に貢献してまいります。



○ 地域金融円滑化のための基本方針

平成 25 年 3 月 31 日に中小企業者等金融円滑化法が終了しましたが、当金庫においては、同法施行以前よりまた終了後も地元のお客さまに対して必要とする資金の供給や条件変更など柔軟な支援に取り組んでおり、今後においてもその姿勢や役割は変わることはありません。

これからも地域経済の発展に向け、金融の円滑な供給、新たなる企業の育成、経営改善、コンサルティング機能の更なる発揮を図るとともに、業務の健全かつ適切な運営の確保にも配慮しながら、全力傾注して取り組んでまいります。

1. 中小企業の経営支援に関する取組み方針

- ◆ お客さまからの資金需要や貸付条件の変更等のご相談、お申し出に対しましては、お客さまの抱えている問題を十分に理解したうえで、できる限りその解決に向けて真摯に取り組んでまいります。
当金庫では、「経営者保証に関するガイドライン」の趣旨や内容を十分に踏まえ、お客さまからお借入れや保証債務整理の相談を受けた際に真摯に対応するための態勢を整備しています。また、経営者保証の必要性については、お客さまとの丁寧な対話により、法人と経営者の関係性や財務状況等を把握し、同ガイドラインの内容を踏まえて十分に検討するなど適切な対応に努めています。

「経営者保証に関するガイドライン」への取組み

	平成 30 年度
新規に無保証で融資した件数	389 件
新規融資に占める経営者保証に依存しない融資の割合	7.34%
保証契約を解除した件数	56 件
経営者保証に関するガイドラインに基づく保証債務整理の成立件数 (当金庫をメイン金融機関として実施したものに限る)	0 件

- ◆ お客さまからの経営改善に向けた取組みに対しましては、経営改善計画書の策定を支援し、現状をモニタリングすることによる進捗状況の確認、助言など、本部・営業店が一体となって経営改善が図れるようにきめ細かな対応を行ってまいります。
- ◆ お客さまからのご要望にお応えできない場合は、理由や根拠をお示しした上で、お客さまにご納得いただけるように対応してまいります。

2. 中小企業の経営支援に関する態勢整備

当金庫は、上記の取組み方針を適切に実施するため、次のとおり必要な態勢整備を図っております。

- ◆ お客さまにきめ細かな経営改善支援を行うため、定期的な企業訪問及び職員への研修、指導に取り組んでおります。平成 26 年 4 月に営業推進部地域産業支援課に審査部企業支援室を統合し、中小企業診断士の資格者を含め人員の増員により、支援内容の充実を図り、顧客の皆さまの経営力強化に資する取組みを強化しております。
- ◆ 職員に対して、お客さまの事業内容を見極める能力（事業性評価）を向上させるため、各種講座への派遣、通信講座の受講、庫内研修を実施しております。
- ◆ 金融円滑化の適切な対応を図るため、全ての条件変更申込について進捗状況等の管理態勢を強化し、迅速な対応を図っております。
- ◆ 関東経済産業局、公益財団法人埼玉県産業振興公社、地元商工団体等の外部関係機関と情報交換を継続的に行ない、地元中小企業の経営支援に取り組んでおります。
- ◆ 各営業店に「ビジネスサポートデスク」を設置し、創業・新事業相談、金融の円滑化に関する相談、経営改善、事業再生、事業承継等といった企業のライフステージ等に応じた支援強化に取り組んでおります。

3. 中小企業の経営支援に関する取組み状況

創業・新事業開拓支援

- ◆ 産学連携協定先の日本工業大学で寄附講座を開講
 - ・ 産学連携協定先の日本工業大学で、当金庫職員を講師とする第 8 回寄附講座「創業の基礎」を開講しました。
(平成 30 年 9 月から平成 31 年 1 月)
- ◆ 日本工業大学「学生起業家支援プログラム」第 13 回ビジネスプランコンテストに共催
 - ・ 平成 30 年 11 月 5 日、日本工業大学主催、当金庫、NITEC 埼玉産学交流会、宮代町の共催により日本工業大学学友会館において開催されました。
- ◆ 創業・新事業支援融資の取扱い

・ アロング	14 件	46 百万円	(残高 35 件	64 百万円)
・ 起業家育成資金	169 件	696 百万円	(残高 609 件	1,581 百万円)



日本工業大学において「第 8 回寄附講座」を贈呈

成長段階における支援

- ◆ 成長 3 分野（環境・医療、介護・健康関連、保育・育児）の事業資金の取扱い
 - ・ 地域応援資金「実」 11 件 166 百万円（残高 73 件 796 百万円）
- ◆ 川信会ビジネスマッチング交流会を開催
 - ・ 平成 30 年 10 月 19 日、本店において、当金庫の後援会「川信会」の会員相互のビジネスマッチングの機会を創出することを目的に、「川信会ビジネスマッチング交流会」を初めて開催しました。川信会会員 119 社のご参加をいただき、19 社のマッチングが成立いたしました。
- ◆ 「彩の国ビジネスアリーナ 2019」に共催
 - ・ 平成 31 年 1 月 30 日、31 日の 2 日間、国内最大級の展示会「彩の国ビジネスアリーナ 2019」を県内 6 金融機関で共催し、販路拡大・取引拡大のビジネスマッチングを推進いたしました。当金庫の取引先企業が出展し、多くの商談が寄せられました。



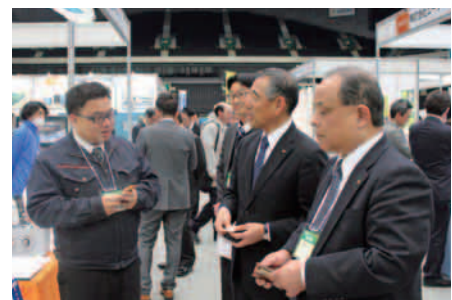
第 13 回ビジネスプランコンテスト表彰式



川信会ビジネスマッチング交流会

経営改善・事業再生・業種転換等の支援

- ◆ 財務診断サービスの充実
 - ・ 経営改善の一助として企業診断資料を積極的に提供しました。
提供件数 3,084 件（平成 30 年度目標 2,000 件、目標対比 154.2%）
- ◆ 事業再生が必要な先への融資や本業支援
 - ・ 経営改善支援先 110 先に対し、経営改善計画策定実行支援及び補助金の申請支援等を実施致しました。
 - ・ 企業再生支援融資の取扱い
サポート 55 件 158 百万円（残高 201 件 392 百万円）
- ◆ 外部関係機関連携先の活用
 - ・ 公益財団法人さいたま市産業創造財団
金融機関連携成長支援事業 8 先利用
 - ・ 埼玉県信用保証協会
専門家派遣 7 先利用
 - ・ 埼玉県事業引継ぎ支援センター 4 先利用
 - ・ 埼玉県よろず支援拠点 9 先利用



彩の国ビジネスアリーナ 2019



彩の国ビジネスアリーナ 2019

4. 創業・新事業支援融資等の実績

(単位: 件、百万円)

商品名	平成30年度(実行ベース) (H30/4～H31/3)		平成30年度(残高ベース) (H31/3/31)	
	件数	金額	件数	金額
創業・新事業支援融資				
アロンク	14	46	35	64
起業家育成資金	169	696	609	1,581
企業再生支援融資				
サポート	55	158	201	392
担保・保証に過度に依存しない融資等				
かわしん地域応援資金「実」	11	166	73	796
「感謝II」			89	497
環境関連融資				
エコカー購入資金	152	353	811	1,178
安心リフォームプラン「一家団欒」	0	0	31	61

5. 経営改善支援の取組み実績【平成30年4月～平成31年3月】

(単位: 先数、%)

	期初債務者数 A	うち 経営改善支援 取組み先α	αのうち期末 に債務者区分が ランクアップし た先数β	αのうち期末に 債務者区分が変 化しなかった先 数γ	αのうち再生計 画を策定した先 数δ	経営改善 支援取組み 率 = α / A	ランク アップ率 = β / α	再生計画 策定率 = δ / α
正常先①	6,645	0		0	0	0.0%		—
要 察 うちその他要注意先②	1,733	104	8	91	104	6.0%	7.7%	100.0%
うち要管理先③	9	0	0	0	0	—	—	—
破綻懸念先④	131	6	2	4	6	4.6%	33.3%	100.0%
実質破綻先⑤	104	0	0	0	0	—	—	—
破綻先⑥	32	0	0	0	0	—	—	—
小計(②～⑥の計)	2,009	110	10	95	110	5.5%	9.1%	100.0%
合計	8,654	110	10	95	110	1.3%	9.1%	100.0%

6. 地域の活性化に関する取組み状況

◆ かわしん経営塾の充実

- 「社員に効率よく働いてもらうには」
 - ・平成30年5月9日 東部地区経営塾 第9回セミナーを開催
 - ・平成30年5月11日 北部地区経営塾 第8回セミナーを開催
 - ・平成30年5月15日 南部地区経営塾 第9回セミナーを開催
 - ・平成30年5月18日 中央地区経営塾 第7回セミナーを開催
 - ・平成30年5月22日 西部地区経営塾 第20回セミナーを開催
- 「埼玉県よろず支援拠点によるセミナー」
 - ・平成31年1月18日 東部地区経営塾 第10回セミナーを開催
 - ・平成31年1月24日 北部地区経営塾 第9回セミナーを開催
 - ・平成31年1月16日 南部地区経営塾 第10回セミナーを開催
 - ・平成31年1月22日 中央地区経営塾 第8回セミナーを開催
 - ・平成31年2月6日 西部地区経営塾 第21回セミナーを開催



「かわしん経営塾」セミナーを開催

◆ 地域活性化の取組み

- 富士見市・ふじみ野市と地方創生に係る包括連携に関する協定を締結
 - ・当金庫は、平成30年10月31日に富士見市、平成31年3月25日にふじみ野市と地方創生に係る包括連携に関する協定を締結いたしました。当金庫が各市と様々な分野で相互に協力し、協働した取組みを行うことで地方創生の実現に資することを目指しております。目的を達成するために、健康・福祉の推進及び少子高齢化対策に関すること、産業基盤の充実と観光の振興に関すること、教育・文化・スポーツ及び生涯学習に関することなど、地方創生を実現するための取組みを推進し、安全・安心な地域づくりに貢献してまいります。



川口市近隣少年軟式野球交流大会に協賛

◆ 地域振興の協賛・参加

- ・川口市近隣少年軟式野球交流大会へ協賛しました。(平成30年9月)
- ・川口マラソン大会に協賛し、役職員が参加しました。(平成30年12月)
- ・鴻巣パンジーマラソン大会に協賛し、役職員が参加しました。(平成31年3月)



鴻巣パンジーマラソン大会に協賛

文化的・社会的貢献活動

川口市の中核都市移行記念式典において表彰



平成30年11月10日、川口総合文化センター・リリアにおいて、川口市の中核都市移行記念式典が開催されました。当金庫は長年にわたり地域福祉の推進のために活動し、川口市の発展に貢献したとして表彰を受けました。

振り込め詐欺被害防止への取り組み



振り込め詐欺被害防止をテーマとした2019年カレンダーを職員からアイデアを募り作成し、地域の事業所やお客さまに配布しました。この取り組みについて、平成30年12月19日、川口警察署より感謝状をいただきました。

献血活動への協力



平成30年6月13日、本店駐車場において役員による献血活動を行いました。昭和60年にかわしん献血会を発足させて以来、34回目の実施となりました。今後も「献血サポーター企業」として、献血活動の普及・拡大に努めてまいります。

職場見学会・インターンシップを実施



職場見学会



1day インターンシップ

金融経済教育・地域貢献活動の一環として、平成30年8月2日、川口市立高校等の生徒を対象に職場見学会を実施しました。また、平成31年1月18日・2月7日に、大学3年生を対象とした1day インターンシップを実施しました。

“かわしん”は、地域社会を応援しています

当金庫は、地域の福祉・環境・まちづくり等を支援しております。

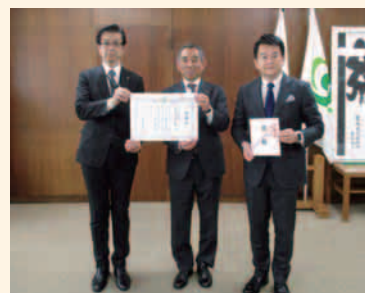
平成31年3月、埼玉県・川口市・さいたま市・戸田市・蕨市・和光市・志木市・富士見市・ふじみ野市・越谷市・春日部市・久喜市・宮代町・鴻巣市・上尾市・桶川市に寄附をさせていただきました。



於) 越谷市役所



於) 川口市役所



於) さいたま市役所

トピックス

川信会ビジネスマッチング交流会を開催



日下会長 挨拶



木村理事長 挨拶

平成 30 年 10 月 19 日、本店において、当金庫の後援会「川信会」の会員相互のマッチング機会を創出することを目的に、川信会ビジネスマッチング交流会を初めて開催しました。川信会会員 119 社のご参加をいただき、19 社のマッチングが成立しました。

富士見市と包括連携に関する協定を締結



平成 30 年 10 月 31 日、当金庫と富士見市は包括連携に関する協定を締結いたしました。企業誘致や創業支援、空き家対策などで協力し、地域発展のお手伝いをしてまいります。

蒲生西口支店に川信会が発足



平成 30 年 11 月 9 日、蒲生西口支店に後援会組織である川信会が発足いたしました。当金庫の川信会は、会員相互の情報交換を通じて金庫とお取引先が共に発展していくことを目的に運営されております。蒲生西口川信会の発足により当金庫 45 店舗のうち、33 店舗に川信会が置かれることとなりました。

鴻巣パンジーマラソン大会に協賛、当金庫「ランナースクラブ」の役職員が参加



地域のスポーツ活動の応援のため、平成 27 年 3 月より鴻巣パンジーマラソン大会に協賛しております。平成 31 年 3 月 2 日に開催された第 37 回鴻巣パンジーマラソン大会に当金庫ランナースクラブのメンバーをはじめ、役職員が参加しました。当日は、鴻巣市陸上競技協会の役員を永く務めた山口特別顧問の号砲により一斉にスタートしました。

ふじみ野市と地域活性化包括連携に関する協定を締結



平成 31 年 3 月 25 日、当金庫とふじみ野市は包括連携に関する協定を締結いたしました。産業・経済の振興、創業支援、地域企業育成などで協力し、地域活性化のお手伝いをしてまいります。

特殊詐欺被害防止により武南警察署から感謝状



当金庫の木曾呂支店では、平成 31 年 1 月 11 日、また、東本郷支店では 1 月 23 日に振り込み詐欺被害の防止が図られました。いずれもお取引先との協力により被疑者が逮捕されたことから、武南警察署より 2 月 14 日に感謝状をいただきました。

環境保全活動への取組み

「かわしん」は、地域の経済発展と環境保全に貢献する信用金庫を目指しております。

当金庫は、文化的・社会的貢献活動とともに、環境問題への取組みが地域金融機関としての社会的・公共的使命と考え、平成16年5月に国際的な環境マネジメントシステム規格であるISO14001の認証をいち早く取得し、環境に配慮した商品の取扱い、省エネ、CO₂削減、エコライフDAY2018への参加等、「環境にやさしいかわしん」として積極的に取り組んでおります。また、金融機関としての本来の業務を通じて、環境に配慮した活動を行なっている企業や個人に対して環境関連の金融商品を提供し、これからも地域経済の健全な発展と地域環境の保全に貢献してまいります。



埼玉県「緑化推進事業」への協力



山口特別顧問 上田県知事 木村理事長

当金庫は、森林の保全整備や身近なみどりの保全・創出を積極的に進めるため、「環境クリーン定期預金」を販売し、販売額の一定割合に相当する200万円を「彩の国みどりの基金」に寄附させていただきました。これまでの販売額は1,765億円、寄附総額は4,450万円となり、緑と川の再生のために使われております。

川口市の緑のまちづくり推進に協力



川口市が推進している緑のまちづくりの一環である、「フラワーロード 緑と花でつくる川口の元気!!」のスローガンに賛同し、フラワースタンドの設置に協賛しております。

環境方針

I. 基本理念

川口信用金庫は、「堅実公正な経営に徹し、地域社会の繁栄に奉仕する」を経営の基本とし、協同組織による地域金融機関としての社会的使命と公共的使命を自覚し、全役職員が一丸となって地域の発展と環境保全に積極的に取り組みます。

II. 基本方針

1. 当金庫が行う事業活動が、環境に影響を及ぼす要因を的確にとらえ、技術的・経済的に可能な範囲で環境目的・目標を定めるとともに、定期的或いは諸条件の変化に対応し適宜レビューを行い、継続的に改善し、環境汚染の予防に取組みます。
2. 上記事業活動が環境に影響を及ぼす要因の中で、特に、地域社会への貢献、中小企業経営再建支援、および福祉・環境を大切にする真の地元金融機関を目指した活動に重点を置き、地域社会との連携を強化しつつ環境保全に取り組めます。
3. 環境に関連する適用可能な法的要求事項及び業界行動指針等、その他の要求事項を順守します。
4. 一人ひとりが環境問題に対する認識を深め、環境マネジメントシステムの効果をあげる為、この環境方針を全役職員、又は当金庫のために働く全ての人に周知徹底を図ります。
5. この環境方針を金庫内外に広く公開します。

環境目標（平成30年度）

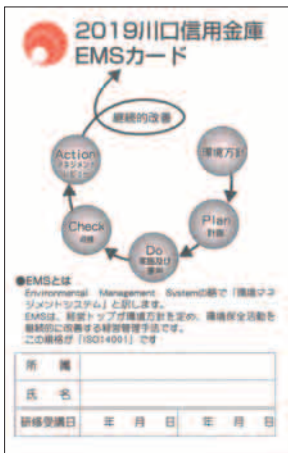
I. 環境に有害な影響を及ぼすものへの削減取組み

1	電力の使用	平成30年度の電力使用量を平成21年度比▲7.00%削減する
2	廃棄物の分別と排出	廃棄物の分別を推進するとともに平成30年度の物件費（別に定める費目）を平成21年度比▲7.00%削減し排出量の削減を図る
3	紙の使用・廃棄	平成30年度の紙費用を平成21年度比▲7.00%削減する

II. 環境に有害な影響を及ぼすものへの削減取組み

1	既存の環境関連金融商品の拡販
2	新規の環境関連金融商品の企画・開発・販売
3	OA機器の効率的活用
4	コンプライアンス及び信頼性・健全性の確保
5	顧客へのISO普及・支援
6	各種地域貢献活動の立案及び実行
7	環境関連のその他サービスの提供

職員への環境教育と環境意識の啓発



- 川口信用金庫EMSカード
全職員がEMS（環境マネジメントシステム）カードを携帯しており、かわしんが掲げる『環境方針』『私たちの環境目標』『私たちの環境行動ルール』が記載されております。環境意識の啓発と徹底を図っております。



本部、本店営業部への異動者を対象とした環境教育を実施しております。環境マネジメントに基づいて、計画的、継続的に展開することで、職員が環境についての知識を学び、環境意識を向上させています。

エコライフ DAY2018 への積極的な参加

川口市は『地域環境にやさしい心を育むまち』として、CO₂排出削減や地球環境保全の施策・取組みを推進しています。その代表的な活動である「エコライフ DAY」は、2000年に川口市で始まり全国で取組まれています。かわしんは、2010年からこのエコライフ DAYに参加しております。平成30年6月に行われた取組みには職員・家族549名が参加、CO₂削減量は56万3,940グラムになりました。



「まちのクールオアシス」への参加



埼玉県の「まちのクールオアシス」推進事業に協力し、熱中症についての情報発信拠点として、一時休憩所を設置することにより、熱中症等のお客さまの臨時避難所として、適切な対応を行う態勢を整えております。

お客さまに環境情報を提供



環境活動報告書を発行

お客さまに環境問題へのご理解を深めていただくため、平成30年11月、かわしんの環境活動報告書第12号を発刊いたしました。これからも情報を継続して提供してまいります。

環境保全に向けた商品やサービスを提供しています



環境クリーン定期預金

環境保護を応援するため「環境クリーン定期預金」を販売し、販売額の一定割合に相当する額を「彩の国みどりの基金」に寄附いたしました。



自家用車購入資金や環境関連融資

ISO14001 認証取得を支援する特別融資を企画・開発しました。取得にかかわる運転資金や設備資金などにご利用いただけます。また、エコカー購入などに利用できるカーライフプラン・エコカー資金も好評でした。

お客様保護等への取組み

お客様の正当な利益の保護や利便性の向上に取り組んでまいります。

顧客保護等管理基本方針

- ・お客様に対する取引又は商品の説明及び情報提供の適切性及び十分性を確保します。
- ・お客様の相談・苦情等の対処の適切性及び十分性を確保します。
- ・お客様情報の管理の適切性を確保します。
- ・業務が外部委託される場合におけるお客様情報やお客様への対応の管理の適切性を確保します。
- ・お客様の利益が不当に害される恐れのある取引の管理の適切性を確保します。
- ・その他お客様保護や利便の向上のために必要であると理事会において判断した業務の管理の適切性を確保します。

金融商品に係る勧誘方針

当金庫は、「金融商品の販売等に関する法律」に基づき、金融商品の販売等に際しては、次の事項を遵守し、勧誘の適正の確保を図ることとします。

1. 当金庫は、お客様の知識、経験、財産の状況及び当該金融商品の販売に係る契約を締結する目的に照らして、適正な情報の提供と商品説明をいたします。
2. 金融商品の選択・購入は、お客様ご自身の判断によってお決めいただきます。その際、当金庫は、お客様に適正な判断をしていただくために、当該金融商品の重要事項について説明をいたします。
3. 当金庫は、誠実・公正な勧誘を心掛け、お客様に対し事実と異なる説明をしたり、誤解を招くことのないよう、研修等を通じて役職員の知識の向上に努めます。
4. 当金庫は、お客様にとって不都合な時間帯や迷惑な場所での勧誘は行いません。
5. 金融商品の販売等に係る勧誘についてご意見やお気づきの点等がございましたら、お近くの窓口までお問い合わせください。

金融 ADR 制度への対応

[苦情処理措置]

当金庫は、お客様からの苦情のお申し出に迅速・公平かつ適切に対応するため内部管理態勢等を整備し、その内容をホームページ、パンフレット等で公表しています。

苦情は、当金庫営業日（9時～17時）に営業店（電話番号は後掲、店舗のご案内を参照ください）または、お客様相談室（電話：0120-58-3311）にお申し出ください。

[紛争解決措置]

当金庫は、紛争解決のため、当金庫営業日に上記お客様相談室または全国しんきん相談所（9時～17時、電話：03-3517-5825）にお申し出があれば、東京弁護士会（電話：03-3581-0031）、第一東京弁護士会（電話：03-3595-8588）、第二東京弁護士会（電話：03-3581-2249）、関東地区しんきん相談所（9時～17時、電話：03-5524-5671）にお申し出があれば埼玉弁護士会（048-710-5666）の仲裁センター等にお取次ぎいたします。また、お客様から各弁護士会に直接お申し出いただくことも可能です。

なお、前記東京三弁護士会の仲裁センター等は、東京都以外の各地のお客様にもご利用いただけます。その際には、お客様のアクセスに便利な東京以外の弁護士会をご利用する次の方法もあります。

（現地調停）東京以外の弁護士会において東京の弁護士会とテレビ会議システム等を用いる方法。

（移管調停）東京以外の弁護士会に案件を移す方法。

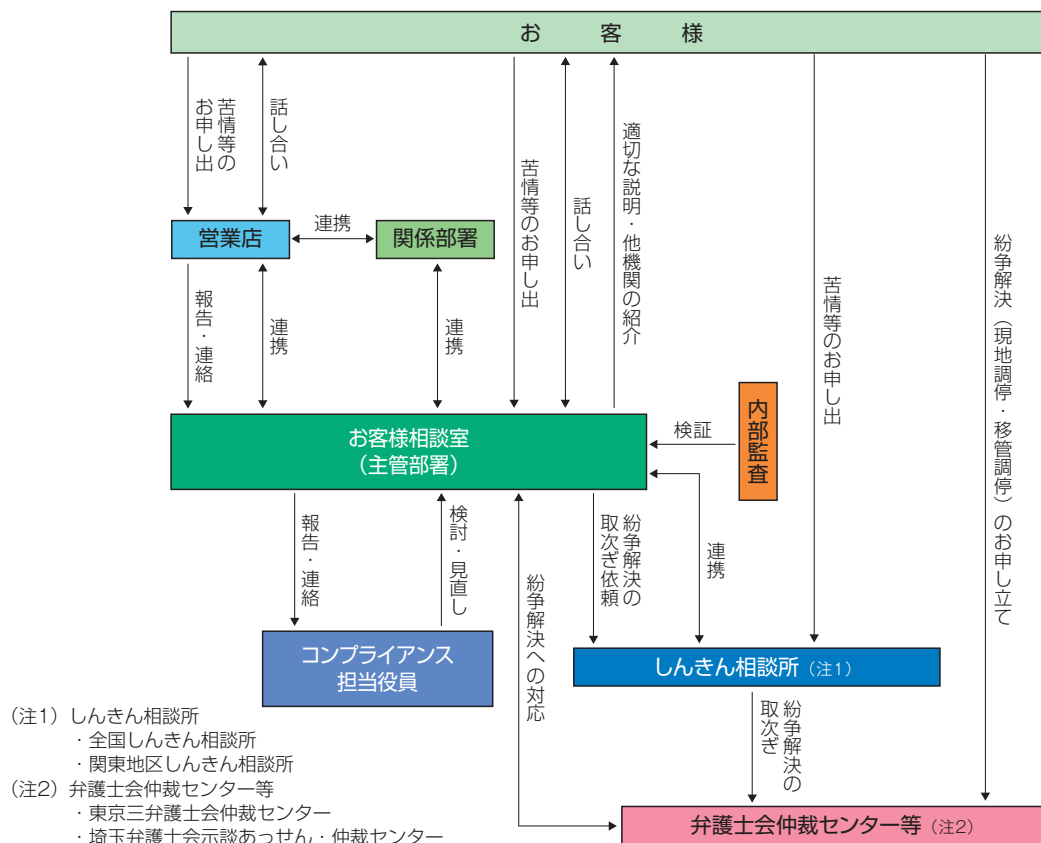
ご利用いただける弁護士会については、あらかじめ前記「東京弁護士会、第一東京弁護士会、第二東京弁護士会、全国しんきん相談所または当金庫お客様相談室」にお尋ねください。

お客様からの苦情等のお申し出は、全国しんきん相談所・関東地区しんきん相談所をはじめとする他の機関でも受け付けていますので、内容やご要望に応じて適切な機関をご紹介します。

苦情等への対応

当金庫の業務処理に伴い発生した相談・苦情又は紛争等（苦情等といいます）への対応につきましては、営業店及び本部各部に責任者を置くとともに、お客様からのお申し出事案について、お客様相談室にて一元管理を行い、事実関係を把握したうえで、営業店、関係部署、お客様相談室が連携して手続きの進行に応じて適切にご説明・対応する等、速やかな解決を第一に考えた態勢を構築しております。

苦情等への取組体制



「お客様相談室」の設置

金融 ADR 制度を含めた苦情等対応専任部署として法務監理部内に「お客様相談室」を設置し、お客様からのお申し出等に対して、迅速、適切に対応できる体制を構築しております。

< お問い合わせ窓口 >

川口信用金庫 お客様相談室

電話番号 0120-58-3311

受付時間 平日 9 時～ 17 時

(祝日、12月31日～1月3日を除く)



個人情報保護宣言（抜粋）

当金庫は、お客様からの信頼を第一と考え、お客様の個人情報及び個人番号（以下「個人情報等」といいます。）の適切な保護と利用を図るために、個人情報の保護に関する法律（平成 15 年 5 月 30 日法律第 57 号）、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成 25 年 5 月 31 日法律第 27 号）および金融分野における個人情報保護に関するガイドライン、その他個人情報保護に関する関係諸法令等を遵守するとともに、その継続的な改善に努めます。また、個人情報等の機密性・正確性の確保に努めます。

※詳細につきましては、当金庫ホームページをご覧ください。

利益相反管理方針

当金庫は、信用金庫法および金融商品取引法等を踏まえ、お客様との取引にあたり、本方針および当金庫が定める庫内規則に基づき、お客様の利益が不当に害されるおそれのある取引を適切に管理（以下「利益相反管理」といいます。）し、もってお客様の利益を保護するとともに、お客様からの信頼を向上させるため、次の事項を遵守いたします。

1. 当金庫は、当金庫がお客様と行う取引を対象として利益相反管理を行います。
2. 当金庫は、以下に定める取引を利益相反管理の対象とします。
 - (1) 次に掲げる取引のうち、お客様の利益が不当に害されるおそれのある取引
 - ① 当金庫が契約等に基づく関係を有するお客様と行う取引
 - ② 当金庫が契約等に基づく関係を有するお客様と対立または競合する相手と行う取引
 - ③ 当金庫が契約等に基づく関係を有するお客様から得た情報を不当に利用して行う取引
 - (2) ①から③の他、お客様の利益が不当に害されるおそれのある取引
3. 当金庫は、利益相反管理の対象となる取引について、次に掲げる方法その他の方法を選択し、またこれらを組み合わせることにより管理します。
 - ① 対象取引を行う部門とお客様との取引を行う部門を分離する方法
 - ② 対象取引またはお客様との取引の条件または方法を変更する方法
 - ③ 対象取引またはお客様との取引を中止する方法
 - ④ 対象取引に伴い、お客様の利益が不当に害されるおそれがあることについて、お客様に適切に開示する方法
4. 当金庫は、営業部門から独立した管理部署の設置および責任者の配置を行い、利益相反のおそれのある取引の特定および利益相反管理を一元的に行います。
また、当金庫は、利益相反管理について定められた法令および庫内規則等を遵守するため、役職員等を対象に教育・研修等を行います。
5. 当金庫は、利益相反管理態勢の適切性および有効性について定期的に検証します。

反社会的勢力に対する基本方針

私ども川口信用金庫は、社会の秩序や安全に脅威を与え、健全な経済・社会の発展を妨げる反社会的勢力との関係を遮断するため、以下のとおり「反社会的勢力に対する基本方針」を定め、これを遵守します。

1. 当金庫は、反社会的勢力との取引を含めた関係を遮断し、不当要求に対しては断固として拒絶します。
2. 当金庫は、反社会的勢力による不当要求に対し、職員の安全を確保しつつ組織として対応し、迅速な問題解決に努めます。
3. 当金庫は、反社会的勢力に対して資金提供、不適切・異例な取引および便宜供与は行いません。
4. 当金庫は、反社会的勢力による不当要求に備えて、平素から警察、暴力追放運動推進センター、弁護士などの外部専門機関と緊密な連携関係を構築します。
5. 当金庫は、反社会的勢力による不当要求に対しては、民事と刑事の両面から法的対抗措置を講じる等、断固たる態度で対応します。

マネー・ローンダリング及びテロ資金供与対策に関する取組み

金融システムは、各金融機関が行う送金・決済・振替等の様々な機能が集積して資金の流れを形成し、ネットワークを構築しているものであり、金融システム全体の健全性を維持するためには、個々の金融機関において、その業務や金融システムにおける役割に応じ、堅牢な管理態勢を構築・維持することが不可欠となっています。

特に、国際社会がテロ等の脅威に直面する中で、マネロン・テロ資金供与対策の不備等を契機として、テロ活動等により国民生活の安全が脅かされたり、健全な経済活動に重大な悪影響を及ぼす恐れがある等、マネロン・テロ資金供与のリスクが地域金融機関においても増大してきています。

当金庫においても、マネロン・テロ資金供与リスクが経営上の重大なリスクになり得るとの理解のもと、経営陣が主体的かつ積極的に関与して管理態勢を構築するため委員会を立ち上げました。委員会において、犯罪収益移転防止法で定められた「特定事業者作成書面」等を制定し、金融機関に求められる国際的要請である、時々変化する国際情勢等に対して機動的かつ実効的な対応が取れる態勢を構築し、金庫にあるリスクを適時・適切に特定・評価し、リスクに見合った低減措置を講じるよう金庫一体となって取組んでおります。

金融犯罪被害の未然防止への取組み

偽造・盗難キャッシュカードによる犯罪からお客さまの大切な預金をお守りするため、被害の発生を防止するための対策および被害を最小限とするための対策を講じております。

■ 届出・受付先

偽造・盗難・紛失等の通帳・カード被害等に遭われた場合には、右記の受付先にご連絡ください。

■ 暗証番号変更のお願い

類推されやすい暗証番号（生年月日、電話番号等）を使用されているお客さまは、お早めに変更をお願いします。暗証番号の変更は当金庫のATMでお手続きいただけます。なお、当金庫から暗証番号をお尋ねすることは一切ございません。

	受付時間帯	受付先名称	受付先電話番号
信用金庫 営業日	0時～9時	(株)しんきん情報サービス しんきんサービスセンター	03-6433-0749
	9時～17時	お取引店又は 最寄りの店	お取引店又は 最寄りの店の電話番号
	17時～24時	(株)しんきん情報サービス しんきんサービスセンター	03-6433-0749
信用金庫 休業日	7時～24時		

振り込め詐欺について

被害者救済の観点から、金融機関の犯罪利用口座に振り込まれ滞留している犯罪被害資金の支払手続等について定めた「振り込め詐欺救済法（犯罪利用預金口座等に係る資金による被害回復分配金の支払等に関する法律）」が平成20年6月21日に施行されています。

当金庫では、振り込め詐欺救済法の定めに基づき、振り込め詐欺等の犯罪被害資金を当金庫の口座に振り込んだ方からのご相談をお受けいたします。

振り込め詐欺救済法に基づき、口座名義人の預金債権消滅手続や分配金支払申請受付手続等を順次行いますので、被害資金の実際の支払までには時間がかかることもあります。それまでは被害のお申出を承り、実際に被害資金返還の手続きが行われる際に連絡を差し上げる取扱いとなりますのでご了承ください。

詳細につきましては、最寄りの営業店へお問い合わせ下さい。

振り込め詐欺救済法に基づく公告および預金保険機構の詳細につきましては、当金庫窓口にお問い合わせください。

還付金詐欺防止対策として、平成29年3月より、70歳以上かつ、3年間キャッシュカードによる振込をしていないお客さまの口座に対してATMでの一日あたりの振込限度額を0円としています。また、平成30年11月より、70歳以上かつ、1年間ATM取引（カード支払・通帳カード併用支払）がないお客さまの口座に対して、ATM一日あたりのMC・IC支払限度額を10万円としています。

■ 振り込め詐欺被害防止マスターの配置

埼玉県警察本部のご協力のもと、振り込め詐欺被害防止への理解と取組み強化のため、「振り込め詐欺被害防止マスター研修会」を実施し、各営業店に「振り込め詐欺被害防止マスター」を任命、配置しております。



振り込め詐欺被害防止マスター研修会

■ 防犯模擬訓練等の実施

お客さまの大事な財産を守るためにも、地元警察署のご協力により防犯模擬訓練を実施しました。

平成30年度

「防犯模擬訓練」実施店舗・・・・・・・・・・6店舗



防犯模擬訓練

お客さま本位の業務運営への取組み

「お客さま本位の業務運営に関する取組方針」を策定し、何がお客さまのためになるかを真剣に考え、より良い金融商品・サービスの提供に努めてまいります。

お客さま本位の業務運営に関する取組方針

当金庫は「堅実公正な経営に徹し、地域社会の繁栄に奉仕する」という基本理念のもと、「お客さまにとっての最善の利益の追求」という目的を達成するため、「お客さま本位の業務運営に関する取組方針」を策定いたしました。全役職員が本方針を遵守し、お客さま本位の質の高い金融サービスの提供に取組んでまいります。また、その取組状況を定期的に公表するとともに、本方針についても定期的に見直しを行い、より良質な業務運営の実現に努めてまいります。

1. お客さまにとっての最善の利益の追求

- ・ 「中・長期的、安定的な資産形成」を重視するとともに、商品の特性やリスクに配慮し、お客さまの幅広いニーズにあった最適な商品やサービスのご提案に努めてまいります。
- ・ お客さまに対して誠実・公正に業務を行い、お客さまの最善の利益が図れるよう、役職員は高度な商品知識と職業倫理の保持に努めてまいります。

2. 利益相反の適切な管理

- ・ 別に定める「利益相反管理方針」を遵守し、お客さまの利益が不当に害されるおそれのある取引を適切に管理し、もってお客さまの利益を保護するとともに、お客さまからの信頼の向上に努めてまいります。

3. 重要な情報や手数料等についての分かりやすい説明

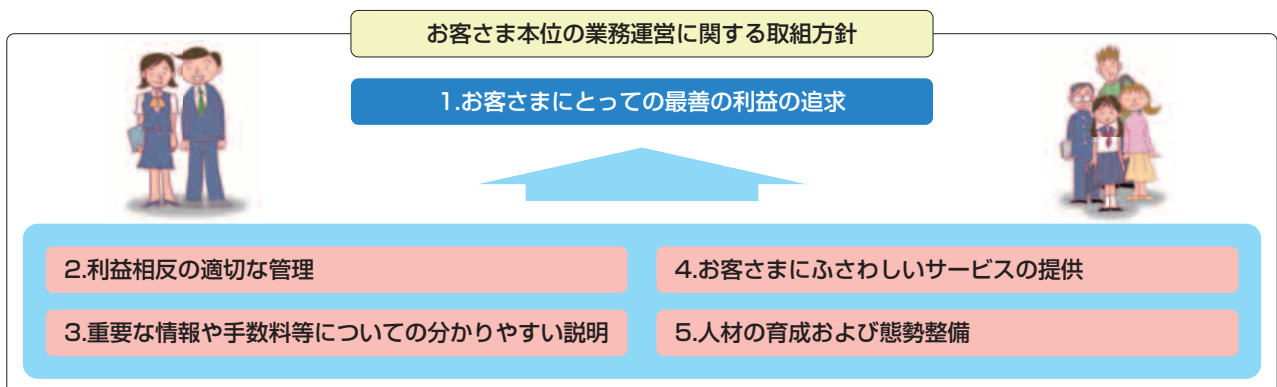
- ・ 商品やサービスの提供にあたっては、リスクとリターンの関係、取引の条件等の重要な情報について、お客さまのご年齢や投資経験等に応じ、より分かりやすい説明に努めてまいります。
- ・ お客さまにご負担いただく手数料等の費用についても、適切な資料を提示し、丁寧にご説明いたします。
- ・ 商品販売後のアフターフォローの充実を図り、経済環境や市場動向等を踏まえた適切な情報提供に努めてまいります。

4. お客さまにふさわしいサービスの提供

- ・ 別に定める「金融商品に係る勧誘方針」を遵守し、お客さまの知識、経験、財産の状況、目的、ライフサイクル等に応じた適切な金融商品・サービスを、お客さまのご意向にも配慮しご提案、ご提供するよう努めてまいります。
- ・ お客さまの多様なニーズにお応えできるよう金融商品・サービスの充実に努めるとともに、商品ラインナップの見直しを継続的に実施いたします。

5. 「お客さま本位の業務運営」を実現するための人材育成および態勢整備

- ・ 研修や資格取得の充実により、「お客さま本位」の認識の徹底や専門知識、提案力の向上に努めてまいります。
- ・ 「お客さま本位」の業務運営に資するため、適切な業績評価の仕組みを整備いたします。



コンプライアンス体制

コンプライアンス（法令等遵守）体制

当金庫は「コンプライアンス」を経営の最重要事項として位置づけ、誠実かつ公正で透明性の高い企業活動を実現するため、コンプライアンス担当役員を委員長とした「コンプライアンス委員会」を設置しています。

また、営業店には法令や社会的ルール、金庫内ルールの遵守徹底を担う「法令等遵守責任者・担当者」を配置しています。

実践面では、法令等遵守に係る基本方針に基づき「コンプライアンス・マニュアル」を作成して全職員に配布し、「コンプライアンス実践計画」に基づいた研修やOJTの実施等によりコンプライアンスを周知徹底しています。

このように金庫全体で法令等を遵守し、コンプライアンスに則った適正な業務の遂行状況について厳しい目でチェックを行い「お客さまに安心してお取引いただける企業風土の醸成」に努めています。

《川口信用金庫行動綱領》

1. 信用金庫の社会的使命と公共性の自覚と責任

信用金庫のもつ社会的使命と公共性を常に自覚し、責任ある健全な業務運営の遂行に努める。

2. 質の高い金融等サービスの提供と地域社会発展への貢献

経済活動を支えるインフラとしての機能はもとより、創意と工夫を活かし、お客さま本位の業務運営を通じて、お客さまのニーズに応えるとともに、市民生活や企業活動に脅威を与えるテロ、サイバー攻撃、自然災害等に備え、セキュリティレベルの向上や災害時の業務継続確保などお客さまの利益の適切な保護にも十分配慮した質の高い金融および非金融サービスの提供等を通じて、地域経済・地域社会の発展に貢献する。

3. 法令やルールの厳格な遵守

あらゆる法令やルールを厳格に遵守し、社会的規範に決してもとることのない、誠実かつ公正な業務運営を遂行する。

4. 地域社会とのコミュニケーション

経営等の情報の積極的、効果的かつ公正に開示し、広く地域社会とのコミュニケーションの充実を図る。また、金庫を取り巻く幅広いステークホルダーとの建設的な対話を通して、社会からの理解と信頼を確保し、自らの価値向上を図る。

5. 人権の尊重

すべての人々の人権を尊重する。

6. 従業員の働き方、職場環境の充実

従業員の多様性、人格、個性を尊重する働き方を実現する。また、健康と安全に配慮した働きやすい職場環境を確保する。

7. 環境問題への取り組み

資源の効率的な利用や廃棄物の削減を実践するとともに、環境保全に寄与する金融サービスを提供するなど、環境問題に積極的に取り組む。

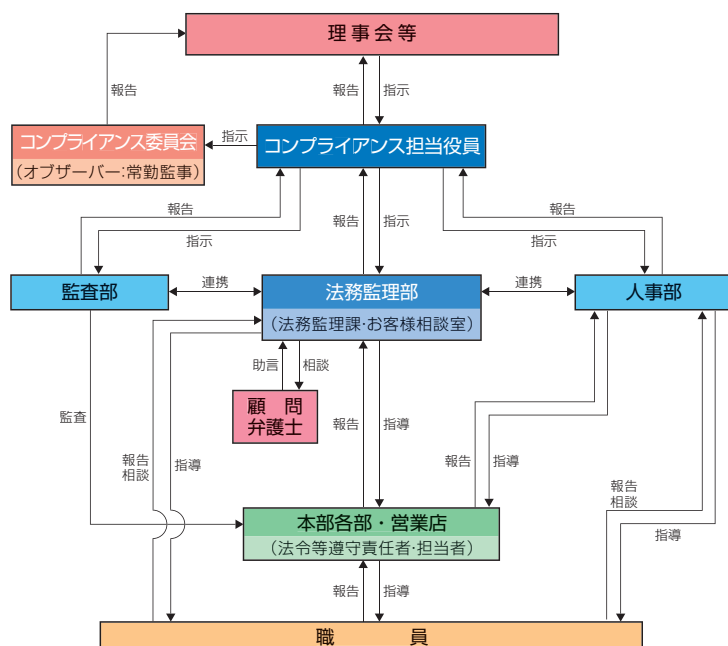
8. 社会参画と発展への貢献

信用金庫が社会の中においてこそ存続・発展し得る存在であることを自覚し、社会とともに歩む「良き企業市民」として、積極的に社会に参画し、その発展に貢献する。

9. 反社会的勢力との関係遮断、テロ等の脅威への対応

社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力は、これを断固として排除し、関係遮断を徹底する。また、国際社会がテロ等の脅威に直面している中で、マネー・ロンダリング対策およびテロ資金供与対策の高度化に努める。

コンプライアンス体制



コンプライアンスセミナー



法令等遵守責任者研修

ワーク・ライフ・バランス推進への取組み

子育て応援で温かい職場づくりと女性の活躍を推進しています。

取組み状況

■ 子育て応援を積極的に推進しています

- ・平成24年には、「埼玉県多様な働き方実践企業」ゴールドに認定されました。さらに、平成28年4月に「女性活躍推進企業」として3つ星の認定を受けました。また、厚生労働省「女性の活躍推進企業データベース」に当金庫の活動実績を公表しております。
- ・平成29年は、5年前に認定を受けた「埼玉県多様な働き方実践企業」の再申請を行い、平成29年8月1日に、「ゴールド」の再認定を受けました。
- ・平成29年7月、当金庫の職場の安全衛生水準向上に対する取組みに対して、埼玉県労働基準協会連合会より表彰を受けました。
- ・平成29年2月にスタートした「育児休業者の勉強会および情報交換会」は名称を「子パンダの会」として、平成30年度も第4回を7月、第5回を平成31年3月に開催しました。新年度も内容の充実を図り定期的に開催していく予定です。



「子パンダの会」を開催
育児休業者の勉強会および情報交換会

■ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進

- ・全店一斉定時退庫日・定時退庫週間を設定しメリハリのある業務推進を行うことにより、長時間労働の抑制を行なっています。
- ・「ワーク・ライフ・バランスの実現」に対する【3つの心構え】と【10の実践】を制定し、全職員に周知しています。
- ・職員の健康管理と家族との団欒の時間を増やす事を目的として、残業時間の抑制に努力しています。

■ 川口信用金庫 行動計画を更新

- ・平成28年に策定した女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画(期間3年)を更新し、平成31年4月厚生労働省「女性活躍推進データベース」に掲載しました。
- ・平成31年3月末現在、一般渉外15名、年金アドバイザー25名、合計40名の女性渉外職員が活躍しています。

■ 取組みの成果

- ・出産を理由に退職する職員はほとんど無く、育児休業取得者が増え、第2子、第3子出産の職員も増加しています。
- ・平成31年3月末現在、産前産後休暇・育児休業取得職員20名、短時間勤務利用者34名となっています。
- ・ワーク・ライフ・バランスを推進する事により、職員各自の健康維持や家族との団欒の時間を増やす事で仕事に対する意欲の増進を図っています。
- ・平成31年3月末現在、女性職員では、本部課長2名、副支店長2名、統括調査役3名、営業店課長11名、調査役1名、副長3名が活躍しています。



女性活躍推進企業認定マーク



総代会制度について

信用金庫は、会員同士の「相互信頼」と「互恵」の精神を基本理念に、会員一人ひとりの意見を最大の価値とする協同組織金融機関です。したがって会員は出資口数に関係なく、一人1票の議決権を持ち、総会を通じて当金庫の経営に参加することとなります。しかし当金庫では、会員数が大変多く、総会の開催は事実上不可能です。そこで当金庫では、会員の総意を適正に反映し、充実した審議を確保するため、総会に代えて総代会制度を採用しております。

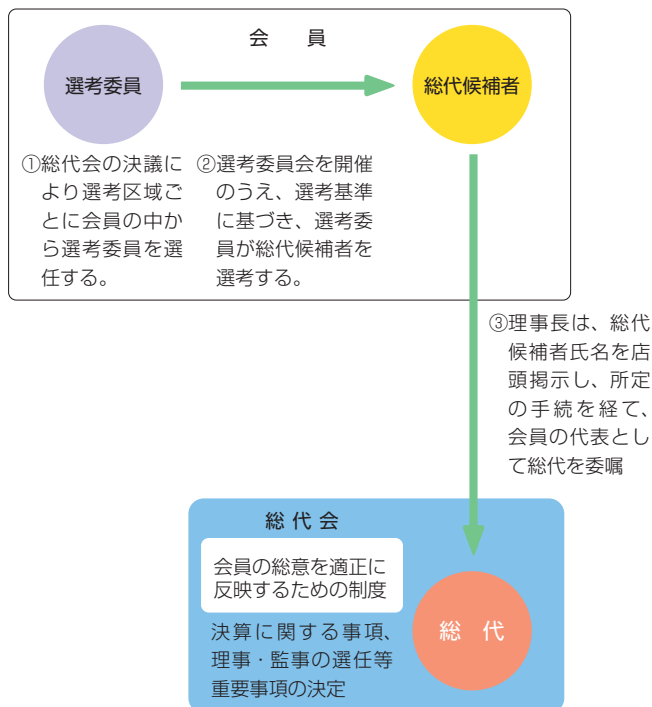
(右「図解」参照)

この総代会は、決算、取扱業務の決定、理事・監事の選任等の重要事項を決議する最高意思決定機関です。したがって総代会は、総会と同様に、会員一人ひとりの意見が当金庫の経営に反映されるよう、総代構成のバランス等に配慮し、選任区域ごとに総代候補者を選考する選考委員会を設け、会員の中から適正な手続きにより選任された総代により運営されます。

また当金庫では、総代会に限定することなく、アンケートや懇談会を実施するなど日常の事業活動を通じて、総代や会員とのコミュニケーションを大切にし、さまざまな経営改善に取り組んでおります。

なお、総代会の運営に関するご意見やご要望につきましては、お近くの営業店までお寄せ下さい。

■ 総代会の仕組み（図解）



■ 総代の選任方法

総代は会員の代表として、会員の総意を当金庫の経営に反映する重要な役割を担っております。

当金庫の総代の選考は、総代候補者選考基準に基づき、次の3つの手続を経て選任されます。(P22「フロー図」参照)

- ① 総代会の決議により、会員の中から総代候補者選考委員を選任する。
- ② 選考委員会を開催のうえ、総代候補者選考委員が総代候補者を選考する。
- ③ 上記②により選考された総代候補者を会員が信任する（異議があれば申し立てる）

■ 総代の任期・定数

総代の任期は2年です。総代の定数は120名で、会員数に応じて各選任区域ごとに定められております。

なお、令和元年6月末日現在の総代数は120名で、会員数は65,770名（平成31年3月末）です。

■ 選任区域ごとの会員数

(単位：名)

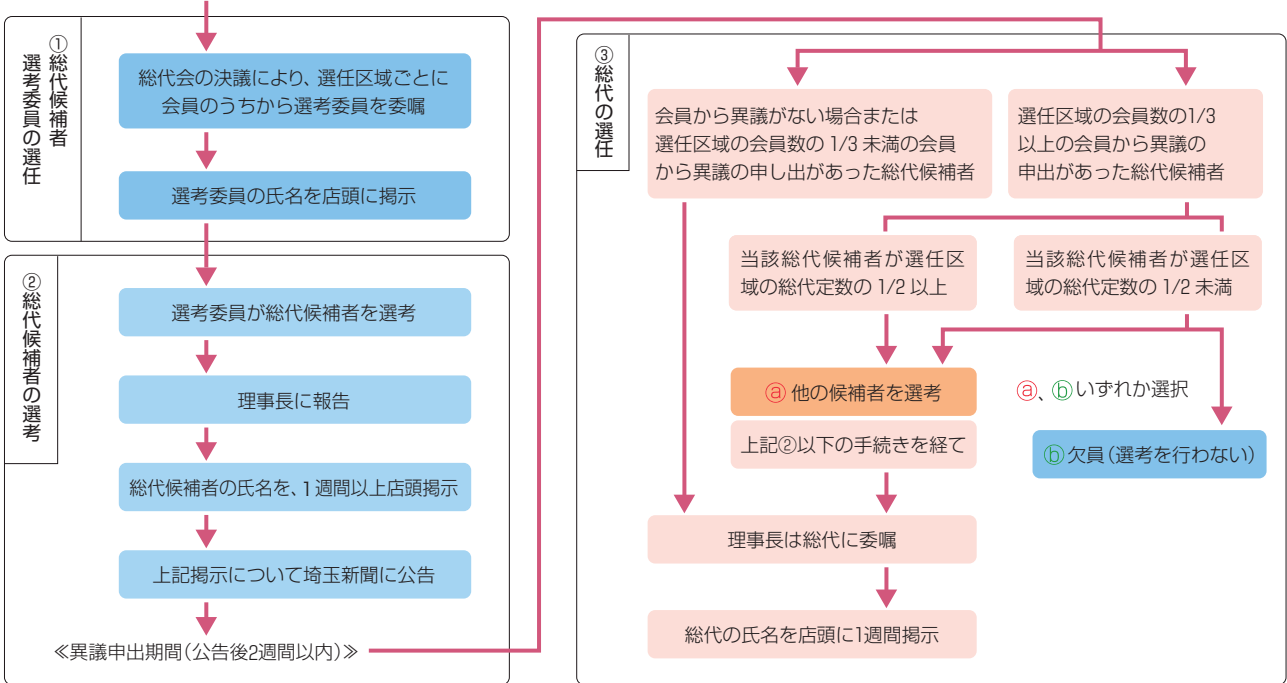
	1区	2区	3区	4区	5区	6区	合計
法人	2,103	1,854	2,049	1,783	1,982	1,665	11,436
個人	10,879	8,165	9,776	9,177	8,952	7,385	54,334
総合計	12,982	10,019	11,825	10,960	10,934	9,050	65,770

(平成31年3月31日現在)

■ 総代が選任されるまでの手続きについて（フロー図）

当金庫の地区を6区の選任区域に分け、各選任区域ごとに総代の定数を定める。

下記フロー図は当金庫定款に定める総代選任手続きに基づいて作成しております。



■ 通常総代会の決議事項等

令和元年6月21日に開催された第96期通常総代会において次の事項が付議され、それぞれ原案どおり承認可決されました。

報告事項

第96期(自平成30年4月1日・至平成31年3月31日)業務報告、貸借対照表及び損益計算書報告の件

決議事項

- 第1号議案 第96期(自平成30年4月1日・至平成31年3月31日) 剰余金処分案承認の件
- 第2号議案 会員除名の件
- 第3号議案 定款一部改正の件
- 第4号議案 理事選任の件
- 第5号議案 退任理事に対する退職慰労金贈呈の件



木村理事長 挨拶



総代会において、新総代の方々が紹介されました。

■ 懇親会を開催

総代の方々と親睦を深めるため、懇親会を開催しました。



来賓 川口市長 奥ノ木信夫 様



山口特別顧問 挨拶



日下会長 挨拶

令和元年6月21日
於) さいたま新都心 ホテルプリランテ武蔵野

総代名簿

※氏名の後の○内数字は総代への就任回数

選任区域	定数	氏名
第1区 川口市の一部 さいたま市(旧浦和市) 蓮田市、久喜市、幸手市 白岡市、北葛飾郡杉戸町 南埼玉郡宮代町	24人	井口 光男④ 石川 義明⑩ 伊藤 光男⑥ 稲垣 茂⑨ 高德 尚慶② 田中 章夫⑧ 田中 宣充④ 遠山 春美④ 仲川 聡② 永瀬 満康② 増井 千恵子③ 森田 昌明⑨ 安形 和彦④ 遠山 秀一⑫ 中原 誠① 飯島 典常② 福原 勝⑧ 長谷川 浄意⑧ 飯島 嵩⑥ 清水 一郎⑧ 榎本 信雄⑧ 邑田 一夫⑧ 松本 保男② 中村 康宏①
第2区 川口市の一部 春日部市	18人	芝崎 貞通⑫ 通山 節子② 古川 元一⑦ 増田 幸也⑨ 池沢 勝之⑨ 池田 東央⑫ 入野 純一⑥ 上市 孝志④ 白根 敬④ 中井 進② 永瀬 恵子② 野沢 紀二④ 吉岡 和義⑨ 林 達也⑬ 石田 恵三⑤ 宇田川 尚志⑤ 千葉 正吾⑧ 畑中 優④
第3区 川口市の一部 さいたま市(旧与野市) 越谷市、八潮市、草加市 三郷市、吉川市 北葛飾郡松伏町	22人	天一 彰夫③ 小嶋 淳② 小林 政氏④ 武井 美親⑦ 永瀬 寛① 赤塚 真理⑤ 阿部 恭久⑥ 小口 政一⑨ 熊谷 純美② 制野 周弘① 田中 一治⑤ 永瀬 重一② 津布久 信雄③ 西田 喜代子② 辻村 健⑧ 前田 和洋② 大森 弘① 多田 則子② 長岡 宏雄⑪ 仁多見 廣業⑧ 大庭 将史⑫ 大野 善典②
第4区 川口市の一部、 さいたま市(旧大宮市) 蕨市	20人	増井 正樹⑦ 伊藤 之厚④ 岩井 良明⑧ 奥ノ木 信夫⑪ 篠塚 和広⑧ 白井 靖① 遠山 明宏④ 野口 徳男⑦ 駒 英明⑩ 池田 嘉弘② 加藤 俊二② 佐藤 由盛④ 戸塚 博之⑦ 山田 由香里② 深井 明友② 榎原 誠⑩ 吉田 日出夫① 堀江 清文⑥ 岩瀬 範忠⑧ 小島 徹⑤
第5区 川口市の一部、戸田市 さいたま市(旧岩槻市) 富士見市、上尾市、桶川市 北本市、鴻巣市、加須市 羽生市、熊谷市、行田市 北足立郡伊奈町 比企郡川島町、比企郡吉見町	20人	葛生 誠一郎② 永井 秀之② 萩原 徹① 丸山 京子② 長谷川 勉③ 町田 新一郎② 伊藤 雅一⑧ 大熊 興一③ 小山 利⑧ 齋藤 純孝⑦ 原田 真理生④ 會田 雅園⑨ 市ヶ谷 昌彦④ 奥墨 常治① 石井 健一② 酒井 照夫② 八木 貞男⑧ 児玉 繁威① 阿部 純① 金澤 孝太郎①
第6区 志木市、新座市、和光市 朝霞市、ふじみ野市、所沢市 狭山市、川越市、鶴ヶ島市 入間郡三芳町、東京都北区 東京都荒川区、東京都足立区 東京都豊島区、東京都板橋区 東京都練馬区、東久留米市 西東京市(旧保谷市)、清瀬市	16人	関口 雅英② 岡野 元昭⑦ 清水 和之④ 清水 良介⑦ 志村 武一郎⑩ 浪川 賢治② 吉川 守① 阿部 和司⑬ 大熊 忠雄⑥ 大滝 亮② 富岡 健治⑥ 柳下 勇③ 田中 満男② 細田 嵩⑩ 松井 寿子② 藤澤 武彦⑧

※総代は令和元年6月末現在です。総数120名(敬称略・順不同)

総代の属性別構成比

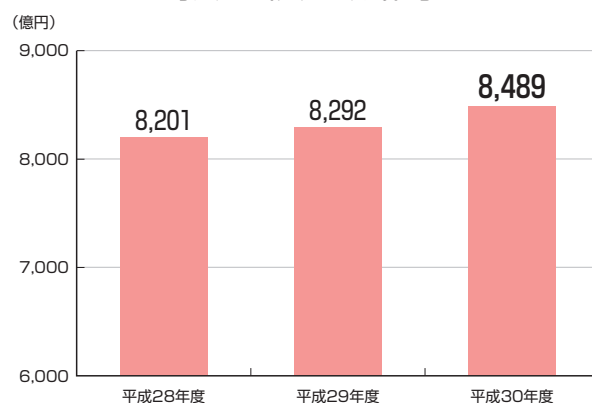
※業種別の構成比は、法人・法人代表者、個人事業主に限る。

職業別	法人・法人代表者 94.2%、個人事業主 4.2%、個人 1.6%
年代別	70代 40.8%、60代 34.2%、50代 17.5%、40代 7.5%
業種別	製造業 40.0%、不動産業 20.0%、建設業 11.6%、卸売業 9.1%、小売業 5.0%、その他サービス業 4.2%、 運輸業 1.7%、専門・技術サービス業 1.7%、生活関連サービス業・娯楽業 1.7%、宿泊業 0.8%、飲食業 0.8%、 教育・学習支援業 1.7%

業績ハイライト

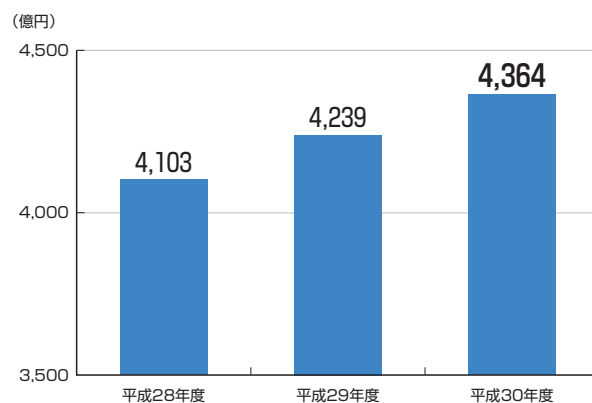


預金積金残高



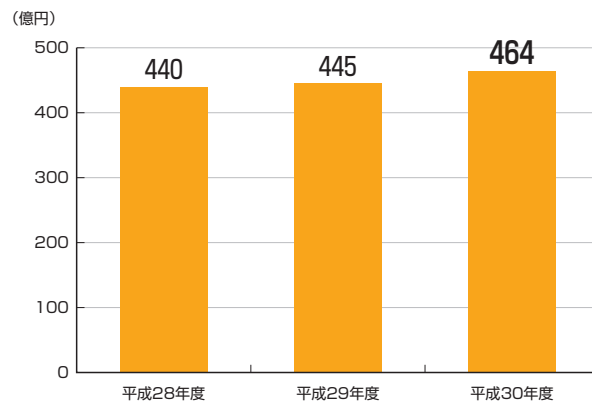
当金庫の預金積金残高は年々増加し、平成30年度末では8,489億円となっております。そのうち、大部分を個人のお客さまが占め、多くの地元の皆さまから高い信頼をいただいております。

貸出金残高



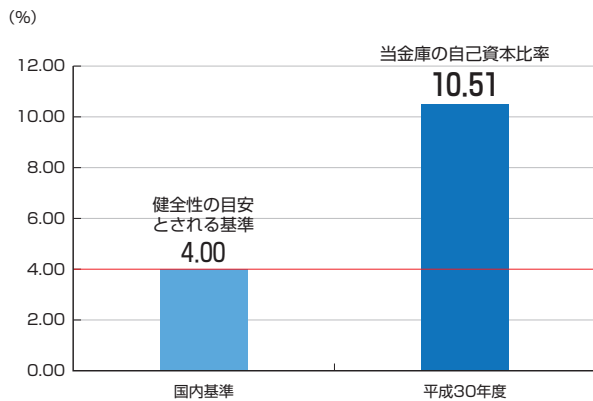
当金庫の貸出金残高は年々増加し、平成30年度末では4,364億円となっております。当金庫は地元中小企業の健全な発展および地域の皆さまの豊かな暮らしのお手伝いのため、特定の業種に偏ることなく、小口・多数者利用の原則に基づいて、ご融資を行っております。

純資産残高



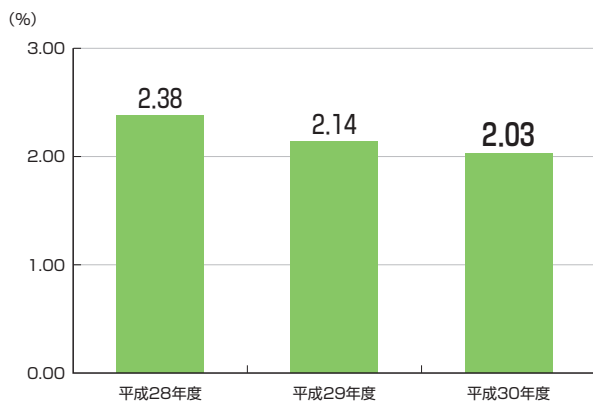
当金庫は永年にわたり堅実経営に努め、積立金や出資金などから成る純資産残高は464億円となっております。

自己資本比率



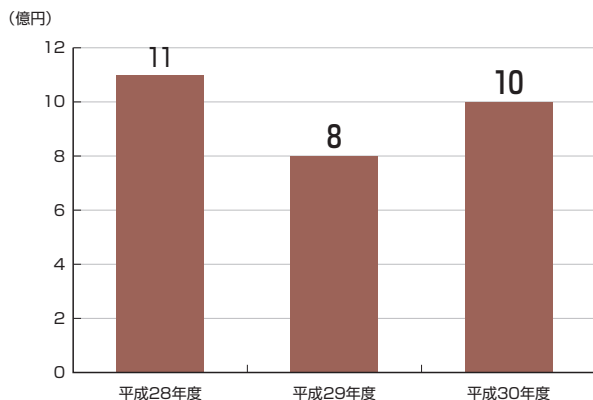
自己資本比率は金融機関の健全性や安定性をはかる重要な指標のひとつです。当金庫の平成30年度末の自己資本比率は10.51%と、国内基準である4%を大きく上回っております。

不良債権比率



当金庫では自己査定基準等に基づく厳正な資産査定を行い、これを基に不良債権の償却・引当を実施しております。平成30年度の不良債権比率は前期比0.11ポイント低下して2.03%に改善しております。

当期純利益



平成30年度において、当期純利益10億円を計上しました。



平成 30 年度事業の概況

かわしんの業績は順調です。

平成 30 年度は、中期経営計画「かわしん 未来への挑戦 100 ～ Second Stage ～」の初年度であり、基本方針として、①経営力・内部管理態勢の強化②支援力・営業力の強化③人材力・組織力の強化を掲げて業務を推進して参りました。また、地域の中小企業・個人・社会が抱えている様々な課題を共に解決していく中心的な役割を担うべく、法人・事業者様には「創業・経営改善のサポート」「事業再生・事業転換へのサポート」、個人のお客様には「ライフステージに応じたサービスの提供」をより一層展開し、地域で一番最初に相談される金融機関を目指して活動を行って参りました。

平成 30 年度の主な業績は次のとおりです。

【預 金】 普通預金を中心に順調に増加し、当期末残高は 8,489 億円、前期比 197 億円の増加（増加率 2.3%）となりました。

【貸出金】 新規事業所開拓を含め事業性融資の増強や、住宅ローン以外の消費者ローンについても積極的に取組んだ結果、当期末残高は 4,364 億円、前期比 125 億円の増加（増加率 2.9%）となりました。

【損益面】 貸出金の増強による貸出金利息の増加や各種手数料収入の増加、また経費の削減にも努めた結果、経常利益は 1,403 百万円と前期比 179 百万円の増益、当期純利益は 1,036 百万円と前期比 165 百万円の増益となりました。

主要な経営指標の推移

		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
経常収益	百万円	12,454	13,602	12,185	10,838	10,831
経常利益	百万円	2,123	3,412	1,583	1,224	1,403
業務純益	百万円	2,229	3,468	1,072	920	1,328
当期純利益	百万円	1,281	1,129	1,192	870	1,036
預金積金残高	百万円	787,895	799,047	820,173	829,216	848,964
貸出金残高	百万円	374,932	391,029	410,324	423,900	436,426
有価証券残高	百万円	227,912	220,106	215,421	212,405	220,423
純資産額	百万円	43,220	46,325	44,073	44,511	46,414
総資産額	百万円	837,854	853,341	871,081	881,895	922,519
会員数	人	65,190	65,444	65,607	65,722	65,770
出資総額	百万円	2,097	2,110	2,118	2,125	2,126
出資総口数	千口	4,194	4,220	4,237	4,250	4,253
出資配当率	%	3	3	3	3	2
出資配当：一口当り	円	15	15	15	15	10
単体自己資本比率	%	11.39	11.36	11.18	10.88	10.51
職員数	人	790	798	793	762	734

自己資本の充実の状況

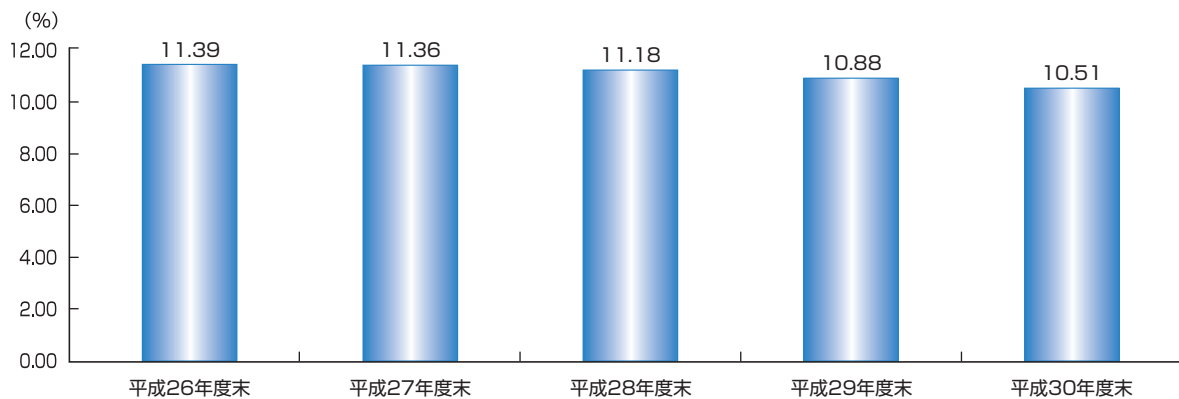
自己資本の充実が強みです。

かわしんの自己資本比率は **10.51%** です。

自己資本比率とは

自己資本比率は、金融機関の健全性・安定性をはかる重要な指標のひとつです。
当金庫のように国内でのみ営業を行う金融機関は、4%以上を維持することが義務づけられています。

単体自己資本比率の推移



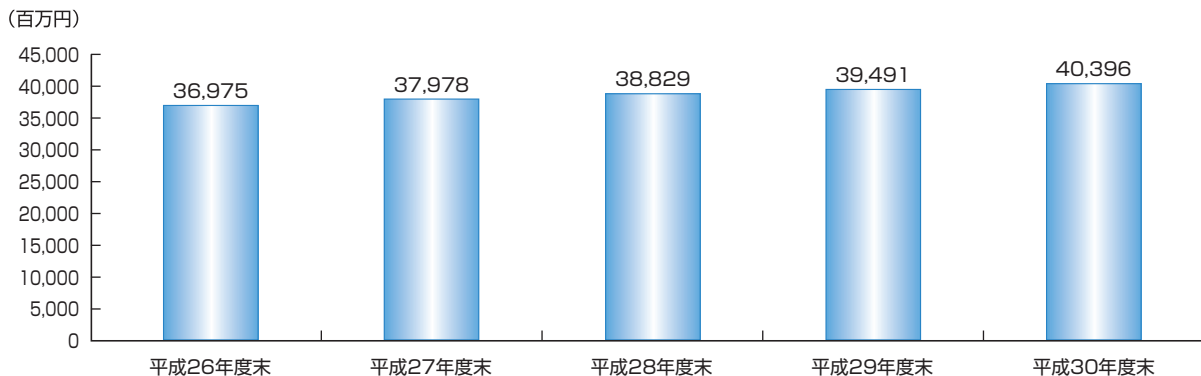
$$\text{自己資本比率} = \frac{\text{自己資本額 (40,396百万円)}}{\text{リスク・アセット等 (384,098百万円)}} \times 100 = 10.51\%$$

自己資本の調達手段と充実度に関する状況

当金庫は、地域の会員の皆さまからの出資金等により自己資本を調達（発行主体：川口信用金庫 資本調達手段の種類：普通出資 コア資本に係る基礎項目の額に算入された額：2,126百万円）しておりますが、これまで安定した利益を計上し、内部留保の積上げにより自己資本を充実させ、自己資本比率は国内基準の4%を大幅に上回る10%台を維持しており、経営の健全性、安定性を保っております。

将来の自己資本の充実策については、年度ごとの事業計画に基づいて健全経営を推進し、期間利益による内部留保の積上げによってさらに充実を図ることとしております。

単体自己資本額の推移



不良債権の状況

厳格な自己査定を実施し、資産の健全性確保に万全を期しております

当金庫では自己査定基準等に基づく厳正な資産査定を行い、これを基に不良債権の償却・引当を実施しております。平成30年度の不良債権額は88億円となっておりますが、その大部分は担保や引当金等で保全されており、また十分な自己資本額によってカバーされております。

金融再生法開示債権及び同債権に対する保全状況

(単位：百万円、%)

区 分	平成29年度						平成30年度							
	開示残高 (a)	保全額 (b)	担保・保証 等による 回収見込額 (c)		貸倒 引当金 (d)	保全率 (b)/(a)	引当率 (d)/(a-c)	開示残高 (a)	保全額 (b)	担保・保証 等による 回収見込額 (c)		貸倒 引当金 (d)	保全率 (b)/(a)	引当率 (d)/(a-c)
金融再生法上の不良債権	9,099	8,303	6,630	1,672	91.2	67.7	8,897	8,127	6,772	1,355	91.3	63.7		
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	3,373	3,373	1,909	1,463	100.0	100.0	2,937	2,937	1,693	1,244	100.0	100.0		
危険債権	5,645	4,880	4,679	201	86.4	20.8	5,895	5,156	5,055	100	87.4	11.9		
要管理債権	81	49	41	8	61.5	20.6	63	33	22	10	51.8	24.8		
正常債権	415,229						428,066							
合 計	424,328						436,963							

- (注) 1. 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
 2. 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。
 3. 「要管理債権」とは、「3ヵ月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金をいいます。
 4. 「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない債権であり、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権をいいます。
 5. 「金融再生法上の不良債権」における「貸倒引当金」には、正常債権に対する一般貸倒引当金を除いて計上しております。

リスク管理債権の引当・保全状況

(単位：百万円、%)

区 分	平成29年度				平成30年度			
	残高 (A)	担保・保証 (B)	貸倒引当金 (C)	保全率(%) (B+C)/(A)	残高 (A)	担保・保証 (B)	貸倒引当金 (C)	保全率(%) (B+C)/(A)
破綻先債権	536	270	265	100.0	278	152	125	100.0
延滞債権	8,472	6,311	1,396	90.9	8,544	6,588	1,216	91.3
3ヵ月以上延滞債権	31	31	—	100.0	12	12	—	100.0
貸出条件緩和債権	49	10	8	36.8	50	10	10	39.7
合 計	9,090	6,623	1,670	91.2	8,886	6,764	1,352	91.3

- (注) 1. 「破綻先債権」とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により、元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(未収利息不計上貸出金)のうち、次のいずれかに該当する債務者に対する貸出金です。
 ①会社更生法又は金融機関等の更生手続の特例等に関する法律の規定による更生手続開始の申立てがあった債務者 ②民事再生法の規定による再生手続開始の申立てがあった債務者 ③破産法の規定による破産手続開始の申立てがあった債務者 ④会社法の規定による特別清算開始の申立てがあった債務者 ⑤手形交換所による取引停止処分を受けた債務者
 2. 「延滞債権」とは、未収利息不計上貸出金のうち次の2つを除いた貸出金です。
 ①上記「破綻先債権」に該当する貸出金 ②債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金
 3. 「3ヵ月以上延滞債権」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上延滞している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しない貸出金です。
 4. 「貸出条件緩和債権」とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以上延滞債権に該当しない貸出金です。
 5. なお、これらの開示額は、担保処分による回収見込額、保証による回収が可能と認められる額や既に引当てている個別貸倒引当金を控除する前の金額であり、全てが損失となるものではありません。
 6. 「担保・保証額」は、自己査定に基づいて計算した担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額の合計額です。
 7. 「貸倒引当金」については、リスク管理債権区分の各項目の貸出金に対して引当てた金額を記載しており、貸借対照表の残高より少なくなっています。
 8. 「保全率」はリスク管理債権ごとの残高に対し、担保・保証、貸倒引当金を設定している割合です。

統合的リスク管理体制

統合的リスク管理の充実・強化を図り、健全経営に努めております

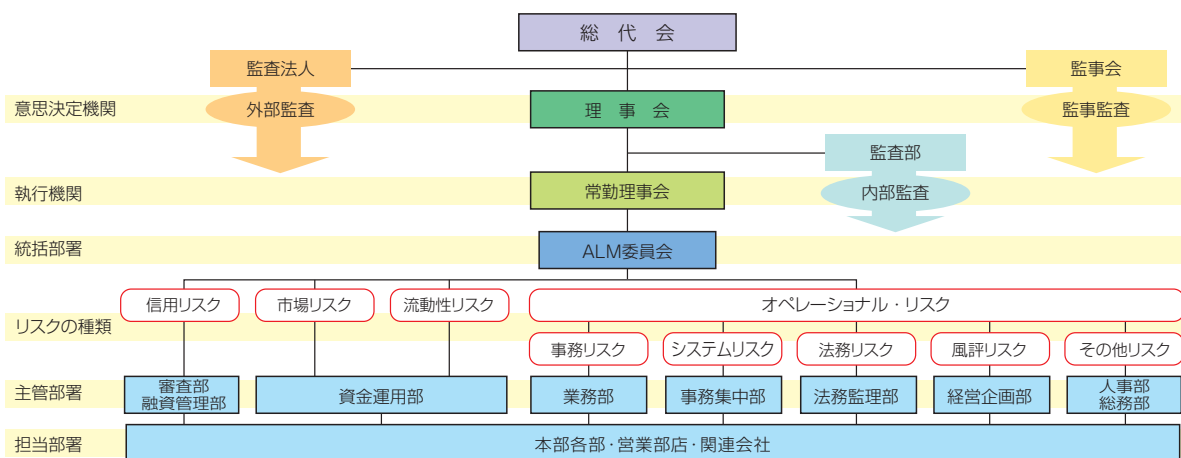
リスク管理の基本方針

金融機関を取り巻く環境が速いスピードで変化する中、業務上のリスクは多様化・複雑化しております。当金庫では、経営の健全性の維持と適正な収益確保のため、リスク管理を経営の最重要課題と位置づけ、リスクを最小限度に抑えることを基本とし、さまざまなリスクを可能な限り定量的に把握し、リスク量を経営体力に見合う適正規模にすることとしております。

統合的リスク管理体制

当金庫では、さまざまなリスクを統合的に管理するため、内部統制基本方針に基づき、統合的リスク管理規程をリスク管理の基本規程とし、各種リスク管理要領等を整備しています。

各リスクごとに主管部署を定め、統括部署として ALM 委員会を設置、十分な自己資本を維持し、経営の健全性の確保を管理する体制としております。



ALM 委員会

信用リスク、市場リスク、流動性リスク等各種リスクを把握し適切にコントロールすることにより、資金調達・運用の適正化および収益の安定的な確保を目的として、定期的を開催しております。

統合的リスクの状況 (平成 31 年 3 月 31 日現在)

統合的リスク量と自己資本の比較

(単位：百万円)

(リスク項目)			(自己資本との比較)		
区分	平成 29 年度	平成 30 年度	区分	平成 29 年度	平成 30 年度
信用リスク	3,080	5,701	自己資本額 (B)	39,491	40,396
市場リスク	7,408	6,776	(B) - (A)	27,681	26,624
オペレーショナル・リスク	1,322	1,295	自己資本比率 4%所要額	14,518	15,364
統合的 リスク量 (A)	11,810	13,772	余力額	13,163	11,260

統合的リスク量は 13,772 百万円であり、想定するリスクが全て顕在化した場合でも自己資本比率は 4% (国内基準) を十分確保でき、11,260 百万円の余力額を有しております。

統合的リスク管理におけるリスク量算定方法

【信用リスク】信用リスク計量化システムにより算出したバリュー・アット・リスク (VaR) をリスク量とし、保有期間 1 年、信頼水準 99.00%としております。

【市場リスク】「市場リスク計測モデル」により算出したバリュー・アット・リスク (VaR) をリスク量とし、金利、株式等の各リスクファクターの相関関係を考慮し、保有期間は国内債および株式等は 6 ヶ月、その他は 1 年、信頼水準は 99.00%としております。

【オペレーショナル・リスク】基礎的手法により、過去 3 年間の業務粗利益の平均値の 15%をリスク量としております。

■ 銀行勘定における金利リスク

<p>【リスク管理及び計測の対象とする金利リスクの考え方及び範囲】</p> <p>銀行勘定の金利リスク（以下 IRRBB という）とは、保有する資産・負債のうち市場金利に影響を受けるものが、金利の変動によって受ける将来の資産価値の変動や収益性に対する影響で、現在価値を経済価値（EVE）として捉え、現行金利水準に対する損失幅を Δ EVE として計測し管理します。計測の対象は、預金、貸出金、有価証券、預け金、その他市場金利に影響を受ける資産・負債です。</p>	<p>【リスク管理及びリスク削減の方針】</p> <p>当金庫は、統合リスク管理要領等において、リスク管理方法や手続等の詳細を明記しており、総合予算委員会において決定された方針に基づき、ALM 委員会で協議検討を行うとともに、必要に応じ理事会へ報告する態勢とし健全性の確保に努めています。</p>
<p>【金利リスク計測の頻度】</p> <p>毎月末を基準日として、月次で計測しています。</p>	<p>【ヘッジ等金利リスクの削減手法】</p> <p>一般的に確立された市場取引を基本とし、派生商品等の取引は自己の ALM ポジションのヘッジ等に限定するものとしています。また、ヘッジ会計は適用していません。</p>
<p>【金利リスクの算定方法の概要】</p> <p>IRRBB の算定にあたり考慮している前提等は以下のとおりです。</p> <p><流動性預金> 流動性預金に割り当てられた金利改定の平均満期は 1.25 年、最長の金利改定満期は 5 年です。</p> <p><コア預金> 金融庁が定める保守的な前提を採用しています。</p> <p><行動オプション性の考慮等> 固定金利貸出の期限前返済や定期預金の早期解約等の行動オプション性について考慮していません。その他計測に影響を及ぼす内部モデル等の使用はしていません。</p> <p><通貨の取扱い> 対象は日本円のみとなっています。</p> <p><スプレッドの取扱い> 計算にあたり、割引金利にスプレッドを含めていますが、キャッシュフローには金利変化分のみを考慮し、スプレッドの変動は考慮していません。</p>	<p>【銀行勘定における金利リスクの特性等】</p> <p>当金庫における Δ EVE の自己資本額に対する割合は高い水準にありますが、当金庫ではリスク資本配賦制度として、金利リスクを VaR などにより管理しており、貸出金や有価証券の VaR に基づくリスク量に上限ガイドラインを設定し金利リスクをコントロールしています。また、自己資本の充実度の評価やストレステストの実施にあたり、過去の事例や景気シナリオに基づく金利変動による影響等を定期的に検証し健全性の確保に努めています。</p>

■ 銀行勘定における金利リスク量（単位：百万円）

IRRBB 1：金利リスク		イ	ロ
項番		Δ EVE	
		当期末	前期末
1	上方パラレルシフト	20,809	
2	下方パラレルシフト	Δ 15,322	
3	スティープ化		
4	フラット化		
5	短期金利上昇		
6	短期金利低下		
7	最大値	20,809	
		ホ	ヘ
		当期末	前期末
8	自己資本の額	40,396	

(注) 1. 金利リスクの算定手法の概要等は、「定性的な開示事項」の項目に記載しております。

2. 「金利リスクに関する事項」については、平成 31 年金融庁告示第 3 号（2019 年 2 月 18 日）による改正を受け、2019 年 3 月末から金利リスクの定義と計測方法等が変更になりました。このため、開示初年度につき、当期末のみを開示しております。なお、昨年開示した旧基準による「金利リスクに関して内部管理上を使用した金利ショックに対する損益：経済価値の増減額」（2017 年度）は、8,192 百万円です。この算出に使用した金利ショックは、旧アウトライヤー基準に係るパーセンタイル値であり、当期末の Δ EVE とは計測定義等が異なります。このため、両者の差異が金利リスク量の増減を示すものではありません。

■ 信用集中リスク

（単位：百万円）

区分	平成 29 年度	平成 30 年度
自己資本 (A)	39,491	40,396
大口要管理以下非保全額 (B)	—	—
信用集中リスクが顕在化した場合の自己資本 (C) = (A) - (B)	39,491	40,396
リスク・アセット等の額の合計額 (D)	362,957	384,098
自己資本比率 (C) / (D)	10.88%	10.51%

リスクの種類等について

リスクの種類	リスク等の説明	当金庫のリスク管理体制		
		リスク管理の方針	手続きの概要	
信用リスク	信用リスクとは、取引先の倒産や財務状況の悪化で貸出金の回収ができなくなるなどにより、当金庫が損失を受けるリスクのことです。	当金庫では、厳格な資産査定及び企業格付などに基づいてリスクを適正に把握し、適切なポートフォリオ管理に反映させるとともに、与信判断の指針として「クレジットポリシー」を明確にし、信用リスクを確実に認識し、管理する態勢としております。	信用リスクの評価につきましては、小口多数取引の推進によるリスクの分散のほか、業種別、さらには与信集中によるリスクの抑制のため大口と信先の管理など、さまざまな角度からの分析に注力しております。リスク量の計測は、「信用リスク計量化システム」により算出し、「ALM委員会」で協議検討を行うとともに、必要に応じ理事会へ報告する態勢としております。貸倒引当金は、「自己査定基準」及び「償却引当基準」に基づき、自己査定における債務者区分ごとに計算された貸倒実績率を基に算定しております。算定結果については監査法人の監査を受けるなど、適正な計上に努めております。リスク・ウェイトの判定に使用する信用格付業者は次の業者を採用しています。株式会社日本格付研究所（JCR）、ムーディーズ・ジャパン株式会社、ムーディーズSFジャパン株式会社、S&Pグローバルレーティング・ジャパン株式会社、株式会社格付投資情報センター（R&I）、フィッチ・レーティングス・ジャパン株式会社、S&PグローバルSFジャパン株式会社。なお、国内法人エクスポージャーは株式会社日本格付研究所（JCR）および株式会社格付投資情報センター（R&I）の格付を優先しております。	
	信用リスク削減手法	当金庫は、信用リスクを軽減するために、不動産担保や信用保証協会による保証などによって保全措置を講じておりますが、これは補完的措置であり、資金使途、返済原資、財務内容、経営者の資質など、さまざまな角度から判断を行っております。また、担保、保証が必要な場合には、お客さまへの十分な説明とご理解をいただき、適切な取扱いに努めております。	パーゼルⅢで定められている信用リスク削減手法は、①適格金融資産担保として預金積金等②保証としてしんきん保証基金等③担保以外の自金庫預金との相殺が該当します。担保に関する手続きについては、「貸出基本規程」や「貸出事務取扱要領」等に基づき適切に取扱い、適正な評価・管理を行っております。また、お客さまが期限の利益を失われた場合には、与信取引の範囲において預金相殺をすることがありますが、「債権管理回収マニュアル」等により適切な取扱いに努めております。保証に関する信用度の評価は、信用格付業者が付与している格付により判定しております。なお、信用リスク削減手法の適用に伴う信用リスクの集中に関しましては、業種やエクスポージャーの種類に偏ることなく、分散されております。	
市場リスク	市場リスクとは、金利や有価証券などの価格あるいは為替などの変動により、保有する資産価値が変動し、当金庫が損失を受けるリスクのことです。	当金庫では、一般的に確立された市場取引による運用を基本とし、市場の変動による日々のリスクを的確に把握するとともに、ポジション枠、リスク・リミット等を設定し、市場リスクを的確に捉え、管理する態勢としております。	市場リスクの評価に関しましては、金利・有価証券の価格・為替等さまざまなリスクファクターの変動による時価・評価損益によるリスク量等の変化を把握し、分析・管理するとともに、「金利上昇時のアクションプラン」に基づく予兆管理を行い、月次で役員に報告しています。時価・評価損益・VaRを日次で管理し、役員まで報告、月次ではVaR、BPV、ヒストリカルテスト等の「市場リスク計測モデル」によりリスク量を計測し、「ALM委員会」で協議検討する態勢としております。	
	銀行勘定における出資等又は株式等エクスポージャー	当金庫では、株式・投資信託について、市場リスク管理と同様保有限度額を設け、適正な収益を確保することを基本方針としております。評価額が著しく下落した場合には、内部規定に基づき適切な対応を講じる態勢としております。	上場株式、投資信託のリスクの認識は、銘柄ごとの日々の時価評価によって把握のうえ役員まで報告し、投資継続の是非を協議するとともに、運用状況について「ALM委員会」に報告し適切なリスク管理に努めております。非上場株式、子会社、投資事業組合への出資金のリスクの状況は、財務諸表や運用報告により把握し、状況について必要に応じ役員まで報告するなど、適切なリスク管理に努めております。	
	証券化エクスポージャー	証券化とは、金融機関が保有するローン債権などの原資産を裏付に証券として組み替え、第三者に売却して流動化することをいいます。	当金庫では、証券化商品について、市場リスク管理と同様に保有限度額や厳格な投資基準を設けるとともに、適切なモニタリング態勢を整えております。	証券化商品のリスクの認識は、当該商品に係る情報（格付の状況、裏付資産の状況、商品の構造等）を投資期間を通じて継続的または適時に入手し、必要に応じて信用補充の十分性、スキーム維持の蓋然性等の検証を行ない、担当役員等へ報告する態勢としております。信用リスクアセット額の算出については標準的手法を、リスク・ウェイトの判定については信用リスク管理と同様の適格格付機関の格付を採用しています。
流動性リスク	流動性リスクとは、予期せぬ資金の流出などによって資金繰りがつかなくなる場合（資金繰りリスク）や、金庫の財務内容の悪化などによって通常よりも高い金利での調達を余儀なくされる（市場流動性リスク）ことにより、当金庫が損失を受けるリスクのことです。	当金庫では、支払準備資金を十分確保するとともに、常時資金の状況を適切に把握・管理しており、資金繰り対策に万全を期す態勢としております。	主管理部において、市場流動性及び資金繰りリスクについて状況を適切に把握・管理するとともに、その状況等について担当理事・理事会に報告し、ALM委員会等で検討・協議する態勢としております。また、非常時を想定したシミュレーション計測を実施し、支払準備資産が適切であるか役員まで報告する態勢としております。	
オペレーショナル・リスク	当金庫では、オペレーショナル・リスクを「内部プロセス、人、システムが不適切であることもしくは機能しないこと、または外生的事象に起因することから生じるリスク」と定義し、次のリスクとしております。	当金庫では、さまざまなリスクごとに管理体制や管理方法に関する「リスク管理要領」を定め、オペレーショナル・リスクを確実に認識し、管理する態勢としております。	オペレーショナル・リスクの評価に関しましては、当面、基礎的手法を採用することとしております。算出したリスク量については「ALM委員会」で協議検討を行うとともに、必要に応じ理事会へ報告する態勢としております。	
	事務リスク	事務リスクとは、従業員が正確な事務を怠ったり、事故や不正などで当金庫が損失を受けるリスクのことです。	人的リスク	人的リスクとは、報酬・解雇などでの人事運営上の不公平・不公正、またセクシュアルハラスメントなど差別的行為によって当金庫が損失を受けるリスクのことです。
	システムリスク	システムリスクとは、災害やシステムの障害などによるコンピュータの停止や誤作動、またコンピュータが不正に使用されることにより当金庫が損失を受けるリスクのことです。	有形資産リスク	有形資産リスクとは、災害などによって店舗、機械設備などの有形資産が毀損し、当金庫が損失を受けるリスクのことです。
	法務リスク	法務リスクとは、当金庫の経営・取引において法令などに違反する行為、或いは不当な契約を結ぶことなどによって、当金庫が損失を受けるリスクのことです。	風評リスク	風評リスクとは、評判の悪化や風説の流布などによって、当金庫の信頼度が低下することによって損失を受けるリスクのことです。

業務のご案内

預金業務

種 類	内 容
定期性総合口座	(普通預金・定期預金・定期積金・ご融資)が一冊の通帳にセットされた便利な口座です。給与やボーナス、年金や配当金のお受け取りにもご利用ください。定期預金・定期積金合計金額の90%(最高200万円)まで、普通預金を引き出すのと同じ手軽さで利用できます。また、キャッシュカードで手軽に出し入れできます。
普通預金	お預け入れ・お引き出しが自由にできる預金です。
貯蓄預金	普通預金のように使える預金です。ご預金の残高に応じた所定金利が適用されます(個人のみ)。また、普通預金とのスイングサービスもお取り扱いしております。
当座預金	小切手等をお使いになるご商売用に便利な預金で安全・効率的です。
通知預金	1万円以上でまとまった資金の短期間の運用に適しています。7日以上据え置き、2日前までの予告で払い出しする条件です。
納税準備預金	計画的に納税資金をご準備いただく預金です。
スーパー定期預金	お預け入れ期間は、1カ月以上5年以内です。
変動金利定期預金	お預け入れの日から、6カ月ごとに金利が変わります。お預け入れ期間は、1年～3年以内です。
期日指定定期預金	1年複利の定期預金です。最長3年、据置期間1年の個人向け預金です。
大口定期預金	大口資金の資産形成に最適です。期間は1カ月～5年以内です。
ねんきん定期500	販売期間を限定した商品です。かわしんで公的年金をお受け取りされている方、または、新しく公的年金のお受け取りを開始される方を対象に、通常の定期預金の金利を優遇いたします。但し、合計500万円まで。期間は1年または3年です。
積立定期預金	契約期間内で分割預入、満期日が設定できます。
かわしん 福祉優遇定期300	かわしんで指定する年金を受給されている方、または新しく受給される方を対象に通常の定期預金の金利を優遇いたします。但し、合計300万円まで。
定期積金	事業資金、住宅新築、結婚、レジャー等のご計画にご利用ください。積立期間は6カ月～60カ月の範囲でお選びいただけます。満期月指定定期積金、旅行定期積金、シニア定期積金「華」などがあります。
ひまわり定期積金	隔月掛込の商品です。かわしんで年金を受給されている方、または、新しく年金の受給をされる方を対象に、通常の定期積金の金利を優遇いたします。積立期間は12カ月～60カ月の範囲でお選びいただけます。
財形預金	(財産形成期日指定積立定期預金) お勤めの方が給与天引きでムリなく計画的な貯蓄ができます。財形年金預金と財形住宅預金を合算して550万円まで非課税です。
無利息型普通預金 (決済用預金)	利息はつきません。預金保険制度により全額保護されます。
教育資金一括贈与専用口座	ご祖父母さま(贈与者)がお子さまやお孫さま(受贈者)に将来の教育資金として金融機関を通じて贈与した場合、受贈者一人につき、1,500万円までの贈与について贈与税非課税制度の専用口座としてご利用いただけます。
かわしん相続定期預金	金融機関等において相続手続き完了後1年以内で、相続された資金をお預けいただけるお客様を対象に、通常の定期預金の金利を優遇いたします。但し、相続資金の範囲内。
後見支援預金	成年後見人が裁判所の報告書・指示書によって利用できる普通預金であり、成年被後見人の財産を日常的に使用する金銭と普段使わない金銭については、裁判所の報告書・指示書がないと入出金等の取引が出来ない仕組みです。

内国・外国為替業務

種 類	内 容
内国為替業務	当金庫の本店をはじめ、日本全国の金融機関をオンラインで結ぶネットワークにより、送金・振込・代金取立等の為替サービスを迅速、確実に取扱っております。
外国為替業務	海外送金、輸出手形の買取・取立や輸入信用状の発行を取扱っております。
モアタイムシステムへの参加	全銀システム稼働時間の拡大に伴い、平成30年10月9日より、本支店・他金融機関あての即時振込の取扱い時間を拡大します。インターネットバンキング、当金庫ATMからのお振込は、即時に振込発信し、ご指定のお受取人様の口座へ入金されます。また、本支店・他金融機関からのお振込は、原則として即時にご入金いたします。

融資業務

種 類	内 容
一般融資	手形割引・電子記録債権割引（商業手形・電子記録債権の割引に）、手形貸付・電子記録債権貸付（短期の資金に）、証書貸付（長期の資金に）、当座貸越があります。皆様の事業のご発展のため広くご融資のお取扱いをしております。
かわしん創業・新事業支援融資「アロング」	開業・新事業・創業3年以内の事業者の方がご利用いただけます。ご融資限度額は500万円まで。
かわしん企業再生支援融資「サポート」	事業者の方の資金繰りの安定・円滑化を図るためにご利用いただけます。ご融資限度額は500万円まで。
かわしん ISO 関連特別融資	ISO9001・ISO14001に係わる運転及び設備資金としてご利用いただけます。ご融資限度額は1,000万円まで。
動産担保融資「トラさん」	当金庫の営業地区内で1年以上事業を行っている法人及び個人事業主の方。新車購入、事業資金にご利用いただけます。ご融資額は取得担保ごとに決定。
かわしん農業支援資金「四季の彩」	農業経営に必要な資金としてご利用いただけます。ご融資金額3,000万円以内
かわしん NPO 支援ローン	NPO 法人の方がご利用いただけます。ご融資額は500万円まで。
制度融資	
埼玉県制度市町村制度	皆さまの事業のご発展に県・市町村制度融資のお取扱いをしております。各種の資金需要に応じたさまざまな制度融資がありますのでご利用下さい。
各種ローン	
カードローン(個人向け)	専用のカードで、現金自動預入支払機（ATM）からお引き出しできます。ご融資限度額は、800万円まで。
ファミリーローン	ご融資の資金は幅広い用途にご利用いただけます。（事業資金、投機資金等を除く）ご融資額は、500万円まで。
かわしんフリーローン「自由自在」	資金使途は自由で、旧債返済資金、事業性資金としてもご利用いただけます。ご融資額は、500万円まで。
しんきんフリーローン	資金用途は自由で、旧債返済資金、事業性資金としてもご利用いただけます。ご融資額は500万円まで。
住宅ローン	住宅の購入、新築、増改築、修繕、模様替えにご利用下さい。他金融機関からの借換えにもご利用いただけます。ご融資額は、1億円まで。
教育プラン	入学金、学費などの教育資金にご利用下さい。ご融資額は、1,000万円まで。
カーライフプラン	車の購入、修理、車検費用等にご利用下さい。ご融資額は、1,000万円まで。
安心リフォームプラン「一家団欒」	太陽光発電設備・エコ仕様設備設置を含むリフォーム、耐震リフォーム、バリアフリーリフォームにご利用ください。ご融資金額は、1,000万円まで。
代理業務	信金中央金庫、(株)日本政策金融公庫、(独)住宅金融支援機構等の代理貸付業務をお取扱いしております。

■ ローンご利用にあたっての留意事項

各商品によって利率、保証料、お借入限度額、お使いみち等が異なりますので、当金庫の窓口で十分にご確認の上ご利用ください。ご利用にあたりましては、無理のない計画的なご利用をお勧めいたします。



証券業務

国債〔長期利付国債、個人向け国債〕・地方債〔埼玉県債〕・投資信託〔しんきんアジア債券ファンド、しんきん世界好配当利回り株ファンド、しんきんインデックスファンド225、しんきん国内債券ファンド、しんきん好配当利回り株ファンド、ニッセイ/パトナム・インカムオープン、しんきんJリートオープン、三井住友・グローバル・リート・オープン、しんきんグローバル6資産ファンド、しんきん3資産ファンド、ニッセイ日本インカムオープン、ハイグレード・オセアニア・ボンド・オープン、DIAM 高格付インカム・オープン、ユナイテッド・マルチ・マネージャー・ファンド1、しんきん世界アロケーションファンド〕・かわしん投信インターネットサービス・かわしん自動積立投信

保険商品

保険種類	保険商品名	保険会社名
がん保険	生きるためのがん保険 Days1 がん診断保険 R	アフラック生命保険(株) 東京海上日動あんしん生命保険(株)
傷害保険	標準傷害保険	共栄火災海上保険株式会社
火災保険 (住宅ローン関連の 長期火災保険)	しんきんグッドすまいる ・THE すまいるの保険	(幹事損害保険会社) ◎損害保険ジャパン日本興亜(株)、三井住友海上火災保険(株)、共栄火災海上保険(株)、東京海上日動火災保険(株)、あいおいニッセイ同和損害保険(株)
自動車保険	ソニー損保の自動車保険・総合自動車保険 Type S	ソニー損害保険(株)
債務返済支援保険	しんきんグッドサポート 債務返済支援特約付帯団体 長期障害所得補償保険	(幹事損害保険会社) ◎共栄火災海上保険株式会社、損害保険ジャパン日本興亜(株)
医療保険	ちゃんと応える医療保険 EVER 病気やケガで働けなくなったときの給与サポート保険 メディカル KitR	アフラック生命保険(株) アフラック生命保険(株) 東京海上日動あんしん生命保険(株)
事業性保険	しんきん お店と事務所ほけん (店舗総合保険)	損害保険ジャパン日本興亜(株)
終身保険	フコクしんらい終身保険 [一時払型] (しんきんらいふ終身 FS)	フコクしんらい生命保険(株)
	低解約返戻金型無配当特別終身保険ふるはーと F (全期前納型)	住友生命保険相互会社
定期保険	ハローキティの定期保険	フコクしんらい生命保険(株)

【注意事項】

- 保険商品は預金等ではありません(預金保険制度の対象外です)。また、解約返戻金や保険金が払込保険料の合計額を下回る場合があります。
- 保険契約を引受け、保険金等をお支払するのは保険会社となります。また、引受保険会社の業務もしくは財産の状況の変化によっては、ご契約時の保険金等が減額される場合があります。(詳細につきましては、お申込みの際にお渡しする「重要事項説明書」「ご契約のしおり」等をご参照ください。)
- ご検討にあたっては、商品パンフレット等必ずご覧ください。
- 詳しくは取扱店までお問い合わせください。所定の資格を持つ募集人がご説明させていただきます。

サービス業務その他

種 類	内 容	
日本銀行歳入代理店業務	国税等の歳入金をお取扱いしております。	
公金の収納事務	県税、市税等の公金をお取扱いしております。	
リースのご案内	機械設備などのリースをご希望のお客さまに、しんきんリース(株)をご案内いたします。	
サッカーくじ toto 換金業務	各市にある23店舗でお取扱いしております。	
投資信託窓口販売業務	各種投資信託商品をお取扱いしております。	
貸金庫	資産の安全な保管にご利用下さい。	
CD キャッシング	しんきん VISA カード及び VISA ジャパン、しんきん JCB 及び JCB、UC、DC、MC 等各グループのカードキャッシングが現金自動受払機(ATM)でご利用いただけます。	
セブン銀行・イオン銀行	お手持ちのキャッシュカードがセブン銀行 ATM、およびイオン銀行 ATM でご利用いただけます。	
しんきんゼロネットサービス	お手持ちのキャッシュカードが全国の信用金庫の CD、ATM でご利用いただけます。平日 8:45 ~ 18:00 の入出金、一部の信用金庫を除いて土曜日 9:00 ~ 14:00 の入出金は、手数料が無料にご利用いただけます。	
デビットカード	お手持ちのキャッシュカードでショッピングができます。	
かわしんアンサーサービス	お客さまご指定の普通・当座預金の入出金明細、預金残高をコンピューターがファクシミリ、プッシュホンを通じてお知らせします。	
かわしんファームバンキングサービス (FB)	ご自宅や事務所で、振込・振替、残高照会・入出金明細照会・振込振替照会が出来ます。 ※本機能をご利用の場合は、別途、月額基本手数料がかかります。	
かわしん自動振込サービス	毎月一定日に、お客さまが指定された金額を指定された受取口座あてに、一定期間継続して振込むサービスです。	
かわしんファクシミリ振込サービス	お手元のファックスから簡単な操作で、振込が出来ます。 ※本機能をご利用の場合は、別途、月額基本手数料がかかります。	
テレホンバンキング	フリーダイヤルを通じ残高照会、振込ができます。	
インターネットバンキング	パソコンからインターネットを通じて、残高照会、振込などが出来ます。	
	個人向けインターネットバンキング	法人および個人事業主向けインターネットバンキング
	振込サービス…即時振込、予約振込、振込予約・結果照会 照会サービス…残高照会、入出金明細照会、取引履歴照会 セキュリティ…ソフトウェアトークン	振込サービス…都度振込、総合振込、給与・賞与振込、明細設定登録・照会 照会サービス…残高照会、入出金明細照会、取引状況照会 セキュリティ…電子証明書
	※お申込においては、振込サービスと照会サービスをご利用出来ます。照会サービスのみのお申込、又は、振込サービスのみのお申込はできませんので、ご了承願います。	
フィッシュウォール	不正送金、フィッシング対策ソフト「フィッシュウォールプレミアム」(無料)をご利用ください。詳しくはホームページをご覧ください。	

種 類	内 容
遺言信託業務	事業、財産、相続人等、遺される方を考慮した円滑な相続を実現するため、遺言書の作成補助、保管、遺言の執行のお手伝いをいたします。(業務提携：信金中央金庫、ほがらか信託(株))
モバイルバンキング	携帯電話で振込・振替、残高照会・振込振替照会が出来ます。
ネット口座振替受付サービス	お客様の携帯電話、パソコンから収納機関(クレジット、生命保険、損害保険等)のインターネットサイトで、預金口座振替契約を締結するサービスです。
しんきん携帯電子マネーチャージサービス	携帯電話からの操作により、お客様の預金口座から電子マネー<Edy>をチャージ(入金)するサービスです。
でんさいサービス	(株)全銀電子債権ネットワーク(通称：でんさいネット)が手形に代わる新たな決済手段として提供する「電子記録債権(でんさい)」を利用するサービスです。企業間取引などで発生した債権の支払に関し、パソコンなどで電子記録をすることで、安全・簡易・迅速に電子記録債権の発生・譲渡等を行うことができます。
個人型確定拠出年金「iDeCo」の取扱い	東京海上日動火災保険(株)との業務委託契約に基づき、取扱いを開始した個人型確定拠出年金(iDeCo)。老後の生活資金形成のための商品です。
インターネットバンキングにおけるAPIサービス提供開始	法人向けインターネットバンキングにおいて、平成31年2月4日よりAPIサービスの提供を開始。今回、API連携を開始する外部企業・サービスは、Freee(フリー)株式会社が提供する「クラウド会計ソフトFreee」となります。

相談業務

■ 顧問相談会

毎月特定日に顧問弁護士、顧問税理士、社会保険労務士(年金)によるお客様相談会を行っております。

■ 年金アドバイザー

年金アドバイザーがお客様の年金の手続き・お受け取り等についてのご相談をお受けしています。お気軽にご相談下さい。

主な手数料一覧

1. 為替手数料

(1) 振込手数料(1件につき)

種 別	金額の区分	手数料			
		当庫同一店内	当庫本支店宛	他行宛	
電 信	ATM	5万円未満	無 料	108円	540円
		5万円以上	108円	216円	648円
	FB モバイルバンキング	5万円未満	無 料	108円	432円
		5万円以上	216円	216円	648円
	ファクシミリ 振 込	5万円未満	無 料	108円	540円
		5万円以上	無 料	216円	648円
	定額自動 振 込	5万円未満	108円	324円	648円
		5万円以上	324円	540円	864円
	窓 口	5万円未満	216円	216円	648円
		5万円以上	432円	432円	864円
	テレホン バンキング	5万円未満	無 料	108円	432円
		5万円以上	216円	216円	648円
インターネット バンキング	5万円未満	無 料	無 料	324円	
	5万円以上	無 料	無 料	540円	
付帯公金 窓 口	5万円未満	-	-	540円	
	5万円以上	-	-	756円	

※定額自動振込には、口座振替手数料が含まれます。

※ATMの他行キャッシュカードによる振込は、上記手数料のほかATM出金手数料がかかります。

(2) 代金取立手数料(1件につき)

種 別		手数料	
		普通扱い	至急扱い
東京手形交換所扱い	当所	432円	-
	横浜交換	648円	-
東京手形交換所以外	横所	864円	1,080円
	他所	864円	1,080円

※割引手形・譲渡担保手形につきましては、交換所扱い及び以外を問わず各手数料に<216円>を加算した金額となります。

※東京手形交換所取扱いの割引手形につきましては、取立手数料はかかりません。但し、代金取立受入後の割引手形につきましては、取立手数料を頂きます。

(3) その他諸手数料(1件または1通につき)

種 別	手数料
取立手形店頭呈示料(所定の手数料を超える場合は実費)	864円
振込・送金の相戻手数料(電信・文書の扱い全て)	864円
取立手形相戻手数料	864円
不渡返却手数料	1,080円
依頼返却手数料	1,080円
店頭返還手数料	1,080円
異議申立手数料	1,080円
税金(東京都・埼玉県内区市町村)取次手数料	432円

種 別	内 容	手数料
口座振替手数料(家賃・駐車場等)	1件につき	108円
(〃 〃 (学校自振)	1件につき(振替件数)	(54円)
ファームバンキング基本手数料	月額(1顧客)	1,080円
ファクシミリ振込サービス基本手数料	月額(1顧客)	1,080円
ワタタイムパスワードサービス(トークン)	月額(1顧客)	108円
インターネットバンキング(法人用)	月額(1顧客)	3,240円

種 別	内 容	手数料	
		自店内	本支店・他行
給与振込手数料	1件につき	無 料	216円

※法人向けインターネットバンキング(WEB-FB サービス)をご利用の場合は、自店内・本支店宛の振込手数料は無料です。

2. 預金関連手数料

(1) 自動機利用手数料

種 別	曜 日	利用時間	手数料	
			出金取引	入金取引
当金庫カード	平 日	8:00 ~ 8:45	108円	無 料
		8:45 ~ 18:00	無 料	無 料
		18:00 ~ 21:00	108円	無 料
	土曜日	8:00 ~ 9:00	108円	無 料
		9:00 ~ 14:00	無 料	無 料
		14:00 ~ 17:00	108円	無 料
日曜・祝日	8:00 ~ 17:00	108円	無 料	
提携信用金庫カード	平 日	8:00 ~ 8:45	108円	108円
		8:45 ~ 18:00	無 料	無 料
		18:00 ~ 21:00	108円	108円
	土曜日	8:00 ~ 9:00	108円	108円
		9:00 ~ 14:00	無 料	無 料
		14:00 ~ 17:00	108円	108円
日曜・祝日	8:00 ~ 17:00	108円	108円	
他行・ゆうちょカード	平 日	8:00 ~ 8:45	216円	216円
		8:45 ~ 18:00	108円	108円
		18:00 ~ 21:00	216円	216円
	土曜日	8:00 ~ 9:00	216円	216円
		9:00 ~ 14:00	108円	108円
		14:00 ~ 17:00	216円	216円
日曜・祝日	8:00 ~ 17:00	216円	216円	

※当金庫のキャッシュカード・ローンカードをご利用のお客様へ

平成22年6月18日より利息制限法改正(利息制限法施行令第2条及び出資の受入れ、預り金及び金利等の取締りに関する法律施行令第2条<平成19年11月公布>)に伴い「定期性総合口座貸付」取引及び「カードローン」取引のATM利用手数料が、貸付等のご利用金額に応じて以下の通り変更となりました。

定期性総合口座貸付、カードローンご利用金額	ATM利用手数料(消費税込)	法令で定められた制限
1万円以下	108円以下	108円以下
1万円超	216円以下	216円以下

(2) 手形・小切手発行手数料

種別	内容	手数料
小切手帳	1冊(50枚)	2,160円
約束手形帳	1冊(50枚)	2,160円
為替手形帳	1冊(25枚)	1,296円
手形貸付用約束手形	1枚につき	108円
専用約束手形(マル専)	1枚につき	648円
自己宛小切手	1枚につき	648円

種別	内容	手数料
署名判登録・変更手数料	各々1件につき	5,400円
マル専口座開設手数料	開設の都度	3,240円

(3) 再発行手数料

種別	内容	手数料	
再発行	通帳・証書(含保護預り証書)	1冊(枚)	1,080円
	キャッシュカード	1枚	1,080円
	ローンカード	1枚	1,080円

※紛失、汚損、破損およびお客様の要請による再発行が対象となります。

3. 融資関連手数料

(1) 不動産担保事務取扱手数料(1件につき)

種別	内容	手数料	
新規設定	一般貸付	金額にかかわらず	54,000円
	住宅ローン	金額にかかわらず	32,400円
	//	追加担保がある場合	48,600円
	//(マンション)	金額にかかわらず	43,200円
極度・順位変更	一般貸付	金額にかかわらず	43,200円
追加担保	一般貸付	当初契約と一体化条件	16,200円
	一般貸付	上記以外	32,400円
担保差し替え	一般貸付	金額にかかわらず	54,000円
全部抹消・一部抹消	一般貸付	金額にかかわらず	5,400円
繰上げ返済による全部抹消	一般貸付	金額にかかわらず	10,800円
担保抹消立会い	一般貸付		5,400円の加算
複数物件設定手数料	一般貸付	法務局の異なる共担物件(1出張所毎)	5,400円の加算
遠隔地物件設定手数料	一般貸付	営業地域外	5,400円の加算
根拠当権譲渡・譲渡手数料	一般貸付	金額にかかわらず	21,600円
評価替え	一般貸付		無料
全部抹消(約定返済)・一部抹消	住宅ローン	金額にかかわらず	5,400円
繰上げ返済による全部抹消	住宅ローン	金額にかかわらず	10,800円
担保抹消立会い	住宅ローン		5,400円の加算

※追加担保において、同一物件に対する抵当権の複数設定は1件扱いとします。

(2) 住宅ローン融資条件変更手数料

種別	内容	手数料
返済条件変更	一部繰上返済(期日短縮・減額等)	5,400円
金利変更	固定金利⇒固定金利	5,400円
	変動金利⇒固定金利	5,400円
固定金利選択型住宅ローン	固定金利選択時、一部繰上返済時	5,400円

(3) 証書貸付(代理貸付を除く)における融資条件変更手数料(一般貸付)(1件につき)

種別	内容	手数料
金利変更※1	固定金利⇒固定金利	5,400円
	変動金利⇒固定金利	5,400円
期限前弁済等に関する特約付き融資※2	①固定金利適用期限前の弁済 残元金×0.5%×従前の固定金利 期間の残存日数÷365日	左記算出額
	②固定金利適用期限前の金利変更 残元金×0.5%×従前の固定金利 期間の残存日数÷365日	
	③固定金利適用期限前に固定金利から変動金利へ変更 残元金×0.5%×従前の固定金利 期間の残存日数÷365日	

※1 期限前弁済等に関する特約先を除きます。(特約の条項に従います。)
 ※2 期限前弁済等に関する特約書の条項に従います。

(4) 融資事務取扱手数料

種別	内容	手数料
不動産担保融資「トラさん」	1件につき	融資金額の0.432%
ニューアパート	1件につき	108,000円 一括返済時別途108,000円
アパートローン	1件につき	54,000円

4. フラット35 融資手数料

利用タイプ	内容	手数料
単独利用タイプ	A型	32,400円
	B型	融資金額×1.86%
当金庫住宅ローン併用タイプ	C型	54,000円

5. その他諸手数料

(1) でんさいネットサービス利用手数料

項目	インターネット・窓口共通		
基本手数料・契約料金		無料	
項目	負担者	インターネット	窓口・代行
発生記録(債務者請求)	当金庫宛	324円	432円
	他行宛	432円	648円
発生記録(債権者請求)	当金庫宛	324円	432円
	他行宛	432円	648円
譲渡記録	当金庫宛	162円	162円
	他行宛	216円	216円
分割譲渡記録	当金庫宛	324円	432円
	他行宛	432円	648円
特別開示(書面)	請求者	-	2,268円
残高証明書(都度発行)	請求者	-	3,348円
残高証明書(定例発行)	請求者	-	1,620円
単独保証記録	請求者	162円	216円
変更記録(オンライン)	請求者	162円	216円
	(書面)	-	1,296円
支払等記録(口座間送金決済以外)	請求者	162円	216円
	(オンライン)	-	216円
訂正・回復	(書面)	請求者	-
	請求者	-	1,296円
訂正内容が煩雑なもの		-	作業実費
支払不能通知の訂正(書面)	請求者	-	2,268円
支払不能通知の取消(書面)	請求者	-	2,268円
支払不能情報照会(書面)	請求者	-	2,268円
口座間送金決済委託手数料(入金)	債権者	無料	無料
	請求者	216円	216円

※(一)表示につきましては「書面」扱いにて、窓口扱いの手数料になります。

(2) 貸金庫利用手数料

種別	内容	手数料	
貸金庫	第1種	年額	12,960円
	第2種	年額	16,200円
	第3種	年額	21,600円
	簡易貸金庫	年額	12,960円
全自動型貸金庫	A型	年額	16,200円
	B型	年額	25,920円
	C型	年額	38,880円
全自動型貸金庫カード発行・鍵代			5,400円
使用者が保管する正鍵の破損または紛失による再調製費用			実費

1. 貸金庫の利用料は年分を前納とします。
 2. 期の途中で契約の場合、契約時に契約月の属する月を1ヵ月として、その月から月額計算します。

(3) 夜間金庫利用手数料

種別	内容	手数料
夜間金庫	年額	32,400円
貸与品(鍵・錠等)の破損又は紛失による修理・再調製費用		実費

(4) 円貨両替手数料・硬貨による預金の払出

種別	内容	手数料
円貨両替・払出	100枚以下	無料
	101～500枚以下	324円
	501枚以上、ただし500枚毎に324円を加算	648円

※硬貨のお取扱いで、当日中、分けてお取扱いしたものは、1回のお取引とさせていただきます。

(5) 諸手数料

種別	内容	手数料
残高証明書発行手数料	預金・融資・公共債・投資信託の各種1件毎	432円(1,080円)
	(監査法人用・英文)	
残高証明書自動発行手数料	預金・融資の各種1件毎	432円
取引履歴明細発行手数料	1顧客	324円
取引明細複写手数料	明細票1枚に付	21円
割賦返済金明細再発行手数料	1件	216円
住宅特別控除用年末残高証明書発行手数料	1通	216円
株式・出資払込手数料	取扱手数料	5千万未満の場合 取扱額×2.5/1,000×1.08
	受付事務手数料	受付票1通毎
両替機利用手数料	カード発行手数料・再発行手数料	2,160円
	年間利用料	19,440円
個人情報開示基本手数料	1回の開示請求に付	540円
個人情報開示復写手数料	開示文書1通につき	21円

●外国為替手数料は、店舗・窓口までお問い合わせ下さい。

●本表の手数料は、消費税8%を含んだ金額です。

平成31年4月1日現在

経営資料編

【単体財務諸表】…………… 38

貸借対照表
損益計算書
剰余金処分計算書
監査法人による監査
理事長による確認
単体財務諸表の注記事項
報酬体系について

【主要な業務の状況を示す指標】…………… 46

業務粗利益及び業務粗利益率
総資産経常利益率及び総資産当期純利益率
資金運用収支、役員取引等収支及びその他業務収支
資金運用勘定並びに資金調達勘定の平均残高
利息、利回り及び資金利鞘
受取利息及び支払利息の増減
預貸率、預証率の期末値及び期中平均値

【預金に関する指標】…………… 47

流動性預金、定期性預金、譲渡性預金、その他の預金の平均残高
預金会員・会員外別残高
預金科目別残高
固定金利定期預金、変動金利定期預金及びその他の区分ごとの定期預金の残高
預金人格別残高

【貸出金等に関する指標】…………… 48

手形貸付、証書貸付、当座貸越及び割引手形の平均残高
固定金利及び変動金利の区分ごとの貸出金の残高
担保の種類別の貸出金残高及び債務保証見返額
用途別の貸出金残高
貸出金会員・会員外別残高
消費者ローン・住宅ローン残高
業種別の貸出金残高及び貸出金の総額に占める割合
貸倒引当金額
貸出金償却額

【有価証券等に関する指標】…………… 50

有価証券の種類別の平均残高
有価証券の時価情報
有価証券の残存期間別残高
金銭の信託の時価情報
デリバティブ取引

【自己資本の充実の状況】…………… 52

自己資本の構成に関する開示事項
自己資本の充実度に関する事項
信用リスクに関する事項
信用リスク削減手法に関する事項
派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項
証券化エクスポージャーに関する事項
出資等エクスポージャーに関する事項
リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項

単体財務諸表

貸借対照表

(資産の部)

(単位：百万円)

科 目	平成 29 年度末	平成 30 年度末
現金	9,087	7,573
預け金	218,733	239,912
買入金銭債権	230	370
有価証券	212,405	220,423
国債	22,330	22,795
地方債	58,281	46,663
社債	93,809	84,994
株式	2,481	2,644
その他の証券	35,501	63,324
貸出金	423,900	436,426
割引手形	12,568	11,253
手形貸付	15,916	17,516
証書貸付	386,893	398,375
当座貸越	8,522	9,281
外国為替	102	33
外国他店預け	102	33
その他資産	4,877	4,910
未決済為替貸	263	364
信金中金出資金	3,444	3,444
未収収益	977	926
その他の資産	191	174
有形固定資産	13,618	13,482
建物	5,552	5,335
土地	7,184	7,323
リース資産	4	11
建設仮勘定	—	6
その他の有形固定資産	876	805
無形固定資産	124	122
ソフトウェア	88	87
その他の無形固定資産	35	35
前払年金費用	382	403
債務保証見返	213	321
貸倒引当金	△ 1,780	△ 1,461
(うち個別貸倒引当金)	△ 1,671	△ 1,352
資産の部合計	881,895	922,519

(負債及び純資産の部)

(単位：百万円)

科 目	平成 29 年度末	平成 30 年度末
預金積金	829,216	848,964
当座預金	13,591	13,935
普通預金	352,130	381,444
貯蓄預金	2,908	2,685
通知預金	249	99
定期預金	431,162	422,056
定期積金	26,428	24,911
その他の預金	2,746	3,831
借入金	2,357	2,178
借入金	2,357	2,178
コールマネー	—	18,700
その他負債	3,068	3,123
未決済為替借	389	577
未払費用	641	348
給付補填備金	19	16
未払法人税等	50	192
前受収益	176	184
払戻未済金	3	3
払戻未済持分	7	9
職員預り金	553	557
リース債務	4	11
資産除去債務	89	89
その他の負債	1,131	1,132
賞与引当金	282	276
役員退職慰労引当金	516	362
睡眠預金払戻損失引当金	150	166
偶発損失引当金	73	76
その他の引当金	13	11
繰延税金負債	1,490	1,923
債務保証	213	321
負債の部合計	837,383	876,104
(純資産の部)		
出資金	2,125	2,126
普通出資金	2,125	2,126
利益剰余金	37,568	38,541
利益準備金	2,118	2,125
その他利益剰余金	35,449	36,416
特別積立金	31,880	32,880
当期末処分剰余金	3,569	3,536
処分未済持分	△ 0	△ 0
会員勘定合計	39,693	40,668
その他有価証券評価差額金	4,818	5,746
評価・換算差額等合計	4,818	5,746
純資産の部合計	44,511	46,414
負債及び純資産の部合計	881,895	922,519

損益計算書

(単位：千円)

科 目	平成 29 年度	平成 30 年度
経常収益	10,838,510	10,831,238
資金運用収益	8,391,874	8,476,365
貸出金利息	5,469,241	5,553,123
預け金利息	628,716	596,437
コールローン利息	230	68
有価証券利息配当金	2,157,691	2,190,802
その他の受入利息	135,994	135,933
役務取引等収益	1,255,366	1,265,895
受入為替手数料	647,716	650,257
その他の役務収益	607,650	615,637
その他業務収益	563,202	761,035
外国為替売買益	7,789	11,991
国債等債券売却益	502,548	672,601
その他の業務収益	52,863	76,441
その他経常収益	628,066	327,942
貸倒引当金戻入益	71,963	81,944
償却債権取立益	10,273	1,228
株式等売却益	308,317	107,042
その他の経常収益	237,512	137,727
経常費用	9,614,342	9,427,570
資金調達費用	259,723	177,920
預金利息	238,947	160,093
給付補填備金繰入額	9,657	7,777
借入金利息	8,174	7,180
コールマネー利息	—	7
その他の支払利息	2,944	2,862
役務取引等費用	875,606	958,577
支払為替手数料	202,386	201,658
その他の役務費用	673,219	756,918
その他業務費用	27,907	7,299
国債等債券償還損	20,323	2,757
その他の業務費用	7,584	4,542
経費	8,305,609	8,161,263
人件費	5,482,268	5,389,346
物件費	2,579,303	2,525,203
税金	244,036	246,713
その他経常費用	145,494	122,508
貸出金償却	107	382
株式等売却損	31,356	6,232
株式等償却	—	982
その他の経常費用	114,031	114,910
経常利益	1,224,168	1,403,667

(次のページに続きます)

(単位：千円)

科 目	平成 29 年度	平成 30 年度
特別損失	2,966	748
固定資産処分損	2,966	748
税引前当期純利益	1,221,202	1,402,919
法人税、住民税及び事業税	183,287	287,472
法人税等調整額	166,975	78,713
法人税等合計	350,263	366,186
当期純利益	870,938	1,036,733
繰越金（当期首残高）	2,699,019	2,500,113
当期末処分剰余金	3,569,958	3,536,846

剰余金処分計算書

(単位：千円)

科 目	平成 29 年度	平成 30 年度
当期末処分剰余金	3,569,958	3,536,846
剰余金処分額	1,069,845	1,044,335
利益準備金	6,255	1,865
普通出資に対する配当金	(年 3%) 63,590	(年 2%) 42,470
特別積立金	1,000,000	1,000,000
繰越金（当期末残高）	2,500,113	2,492,510

平成 29 年度および平成 30 年度の貸借対照表、損益計算書および剰余金処分計算書については、信用金庫法第 38 条の 2 第 3 項の規定にもとづき、東陽監査法人による監査を受けており、適正・適法に作成されている旨の監査意見をいただいております。

平成 30 年度における貸借対照表、損益計算書および剰余金処分計算書（以下、「財務諸表」という。）の適正性、および財務諸表作成に係る内部監査の有効性を確認しております。

令和元年 6 月 21 日
川口信用金庫
理事長 木村 幹雄

単体財務諸表の注記事項

貸借対照表関係

(注記)

- 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。
- 有価証券の評価は、その他有価証券のうち時価のあるものについては決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法又は償却原価法により行っております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
- 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は時価法により行っております。金銭の信託において信託財産を構成している有価証券の評価は上記2.と同じ方法により行っております。
- 有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却は、定率法（ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法）を採用しております。
また、主な耐用年数は次のとおりであります。
建 物 39年～50年
その他 3年～20年
- 無形固定資産の減価償却は、定額法により償却しております。なお、金庫利用のソフトウェアについては、金庫内における利用可能期間5年に基づいて償却しております。
- 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産の減価償却は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。
- 外貨建資産・負債については、決算日の為替相場による円換算額を付しております。
- 貸倒引当金は、予め定めている償却、引当基準により、次のとおり計上しております。
破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状態にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。
上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。
すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業部、審査部及び融資管理部（営業関連部署）が資産査定を実施し、当該部署から独立した法務監理部（資産査定部署）が査定結果を監査しております。
なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は62百万円であります。
また、上記の引当のほかにゴルフ会員権に対して、7百万円を計上しております。
- 賞与引当金は、職員への賞与の支払いに備えるため、職員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。
- 退職給付引当金は、職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。また、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については期間定額基準により行っております。なお、数理計算上の差異の費用処理方法は次のとおりであります。数理計算上の差異：各事業年度の発生時の職員の平均残存勤務期間内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌事業年度から費用処理。
また、当庫は複数事業主により設立された総合設立型厚生年金基金である全国信用金庫厚生年金基金に加入しており、当庫の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、当該企業年金制度への拠出額を退職給付費用として処理しております。

なお、当該企業年金制度全体の直近の積立状況及び制度全体の拠出等に占める当金庫の割合並びにこれらに関する補足説明は次のとおりであります。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項（平成30年3月31日現在）	
①年金資産の額	1,669,710百万円
②年金財政計算上の給付債務の額	1,806,457百万円
差引額（①－②）	-136,747百万円

(2) 制度全体に占める当金庫の掛金拠出割合（平成30年3月分）
0.6750%

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高197,854百万円であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は期間19年0カ月の元利均等定率償却であり、当金庫は、当事業年度の財務諸表上、当該償却に充てられる特別掛金132百万円を費用処理しております。

なお、特別掛金の額は、予め定められた掛金率を掛金拠出時の標準給与の額に乗じることで算定されるため、上記(2)の割合は当金庫の実際の負担割合とは一致しません。

- 役員退職慰労引当金は、役員退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。
- 睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。
- 偶発損失引当金は、信用保証協会への負担金の支払いに備えるため、将来の負担金支払見込額を計上しております。
- 消費税及び地方消費税の会計処理は、税込方式によっております。
- 理事及び監事との間の取引による理事及び監事に対する金銭債権総額1,236百万円
- 有形固定資産の減価償却累計額 9,633百万円
- 貸借対照表に計上した固定資産のほか現金自動預入支払機・両替機及び一部の事務機器については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しております。
- 貸出金のうち、破綻先債権額は278百万円、延滞債権額は8,544百万円であります。
なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
- 貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額は12百万円であります。
なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
- 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は50百万円であります。
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。
- 破綻先債権額、延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は8,886百万円であります。
なお、18.から21.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
- 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は11,253百万円であります。
- 担保に供している資産は、次のとおりであります。
為替決済、日銀歳入代理店業務、及び公金取扱等の担保等として有価

証券 24,526 百万円及び預け金 36,700 百万円差し入れております。

24. 出資 1 口当たりの純資産額 10,912 円 53 銭

25. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当金庫は、預金業務、融資業務および市場運用業務などの金融業務を行っております。

このため、金利変動による不利な影響が生じないように、資産及び負債の総合的管理 (ALM) をしております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当金庫が保有する金融資産は、主として事業地区内のお客様に対する貸出金です。

また、有価証券は、主に債券、投資信託及び株式であり、純投資目的及び政策保有目的で保有しております。

これらは、それぞれ発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクがあります。

一方、金融負債は主としてお客様からの預金であり、流動性リスクがありまた、変動金利の預金については、金利の変動リスクもあります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスクの管理

当金庫は、貸出基本規程及び統合的リスク管理規程・信用リスク管理要領に従い、貸出金について、個別案件ごとの与信審査、与信限度額、信用情報管理、保証や担保の設定、問題債権への対応など信用管理に関する体制を整備し運営しております。これらの与信管理は、各営業店のほか審査部・融資管理部により行われ、また、ALM 委員会が協議検討を行うとともに、必要に応じ理事会へ報告する態勢としております。さらに、与信管理の状況については、監査部がチェックしております。

有価証券の発行体の信用リスクに関しては、資金運用部において、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理しております。

②市場リスクの管理

(i) 金利リスクの管理

当金庫は、市場リスク管理要領において、リスク管理方法や手続等の詳細を明記しており、総合予算委員会において決定された方針に基づき、ALM 委員会が協議検討を行うとともに、必要に応じ理事会へ報告する態勢としております。日常的には経営企画部において金融資産及び負債の金利や期間を総合的に把握し、ギャップ分析や金利感応度分析等によりモニタリングを行い、ALM 委員会等に報告しております。

(ii) 価格変動リスクの管理

有価証券を含む市場運用商品の保有については、余資運用会議の方針に基づき、理事会の監督の下、余資資金運用規程に従い行われております。

このうち、資金運用部では、市場運用商品の購入を行っており、事前審査、投資限度額の設定のほか、継続的なモニタリングを通じて、価格変動リスクの軽減を図っております。

(iii) 市場リスクに係る定量的情報

当金庫において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、「預け金」、「有価証券」のうち債券、「貸出金」及び「預金積金」であります。

当金庫では、これらの金融資産及び金融負債について、「信用金庫法施行規則第 132 条第 1 項第 5 号二等の規定に基づき、自己資本の充実の状況等について金融庁長官が別に定める事項」(平成 26 年金融庁告示第 8 号)において通貨ごとに規定された金利ショックを用いた時価の変動額を市場リスク量とし、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しております。

当該変動額の算定にあたっては、対象の金融資産及び金融負債を固定金利群と変動金利群に分けて、それぞれ金利期日に応じて適切な期間に残高を分解し、期間ごとの金利変動幅を用いております。

なお、金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当事業年度末において、上方パラレルシフト(指標金利の上昇をいい、日本円金利の場合 1.00% 上昇等、通貨ごとに上昇幅が異なる)が生じた場合、時価は

20,809 百万円減少するものと把握しております。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数との相関を考慮しておりません。

また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

③資金調達に係る流動性リスクの管理

当金庫は、ALM を通じて、適時に資金管理を行うほか、資金調達手段の多様化、市場環境を考慮した長短の調達バランスの調整などによって、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

26. 金融商品の時価等に関する事項

平成 31 年 3 月 31 日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません(注 2 参照)。また、重要性の乏しい科目については記載を省略しております。

(単位: 百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 預け金	239,912	245,649	5,737
(2) 有価証券 その他有価証券	220,304	220,304	—
(3) 貸出金 貸倒引当金 (* 1)	436,426 △ 1,454		
	434,972	440,348	5,375
金融資産計	895,189	906,303	11,113
(1) 預金積金	848,964	849,098	134
(2) コールマネー	18,700	18,700	—
金融負債計	867,664	867,798	134

(* 1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(注 1) 金融商品の時価等の算定方法

金融資産

(1) 預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金については、残存期間に基づく区分ごとに、市場金利で割り引いた現在価値を算定しております。

(2) 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価格によっております。なお、保有目的区分ごとの有価証券に関する注記事項については 27. から 29. に記載しております。

(3) 貸出金

貸出金は、以下の合計額から、貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除する方法により算定し、その算出結果を簡便な方法により算出した時価に代わる金額として記載しております。

変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を市場金利で割り引いて時価を算定しております。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。

金融負債

(1) 預金積金

要求預金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。また、定期性預金の時価は、一定期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フロー

を割引いて現在価値を算定しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。

(2) コールマネー

残存期間が短期間（1ヶ月以内）のものであり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報には含まれておりません。

(単位：百万円)

区分	貸借対照表計上額
①非上場株式（*1）	117
②組合出資金（*2）	1
合計	118

(*1) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしていません。

(*2) 組合出資金のうち、組合財産が非上場株式など時価を把握することが極めて困難と認められるもので構成されているものについては、時価開示の対象とはしていません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
預け金	96,000	28,100	48,800	32,000
有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの	15,636	51,748	66,029	53,112
貸出金（*）	84,936	115,390	98,184	123,330
合計	196,572	195,238	213,013	208,443

(*）貸出金のうち、期間の定めがないもの等は含めておりません。

(注4) 有利子負債の決算日後の返済予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
預金積金（*）	796,860	52,058	8	38
コールマネー	18,700	—	—	—
合計	815,560	52,058	8	38

(*）預金積金のうち、要求払預金等、返済予定額が見込めないものは「1年以内」に含めております。

27. 有価証券の時価及び評価差額等に関する事項は次のとおりであります。

売買目的有価証券はありません。

満期保有目的の債券はありません。

子会社・子法人等株式及び関連法人等株式はありません。

その他有価証券

	種類	貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	564	359	204
	債券	147,255	141,215	6,040
	国債	22,795	21,261	1,534
	地方債	43,916	41,509	2,407
	社債	80,543	78,444	2,098
	その他	49,547	47,097	2,450
	小計	197,367	188,672	8,695
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	1,963	2,427	△464
	債券	7,198	7,256	△58
	国債	—	—	—
	地方債	2,746	2,775	△28
	社債	4,451	4,480	△29
	その他	13,775	14,005	△229
小計	22,937	23,689	△752	
合計		220,304	212,361	7,943

28. 当事業年度中に売却したその他有価証券

	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	410	67	—
債券	11,760	672	—
国債	1,970	2	—
地方債	7,829	561	—
社債	1,961	107	—
その他	969	40	6
合計	13,140	779	6

29. 減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券で時価を把握することが極めて困難と認められる株式について、当該株式の発行主体の財政状態の悪化により実質価額が取得原価に比べて著しく下落しており、実質価額が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該実質価額をもって貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当事業年度の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。当事業年度における減損処理額は、0百万円（非上場株式）であります。また、実質価額が「著しく下落した」と判断するための基準は、実質価額が取得原価に比べて50%を超えて低下し、実質価額の回収可能性が十分な証拠によって裏付けられない場合としております。

30. その他の金銭の信託（運用目的及び満期保有目的以外）はありません。

31. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。

これらの契約に係る融資未実行残高は、69,458百万円であります。このうち契約残存期間が1年以内のものが26,104百万円あります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当金庫の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全、その他相当の事由があるときは、当金庫が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている金庫内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

32. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主原因別の内訳は、それぞれ以下のとおりであります。

繰延税金資産	
貸倒引当金	356百万円
貸出金償却	17百万円
役員退職慰労引当金	100百万円
減価償却超過額	40百万円
賞与引当金	76百万円
減損損失	460百万円
その他	229百万円
繰延税金資産小計	1,280百万円
評価性引当額	△895百万円
繰延税金資産合計	385百万円
繰延税金負債	
前払年金費用	111百万円
その他有価証券評価差額金	2,197百万円
その他	0百万円
繰延税金負債合計	2,309百万円
繰延税金負債の純額	1,923百万円

損益計算書関係

1. 記載金額は千円未満を切捨てて表示しております。
2. 出資1口当たりの当期純利益金額 243円87銭

報酬体系について

■ 対象役員

当金庫における報酬体系の開示対象となる「対象役員」は、常勤理事及び常勤監事をいいます。対象役員に対する報酬等は、職務執行の対価として支払う「基本報酬」及び「賞与」、在任期間中の職務執行及び特別功勞の対価として退任時に支払う「退職慰労金」で構成されております。

(1) 報酬体系の概要

【基本報酬及び賞与】

非常勤を含む全役員の基本報酬及び賞与につきましては、総代会において、理事全員及び監事全員それぞれの支払総額の最高限度額を決定しております。

そのうえで、各理事の基本報酬額につきましては役位や在任年数等を、各理事の賞与額については前年度の業績等をそれぞれ勘案し決定しております。また、各監事の基本報酬額及び賞与額につきましては、監事の協議により決定しております。

【退職慰労金】

退職慰労金につきましては、在任期間中に每期引当金を計上し、退任時に総代会で承認を得た後、支払っております。

なお、当金庫では、全役員に適用される退職慰労金の支払いに関して、主として決定方法・支払時期等の事項を規程で定めております。

(2) 平成30年度における対象役員に対する報酬等の支払総額

(単位：百万円)

区 分	支払い総額
対象役員に対する報酬等	284

(注) 1. 対象役員に該当する理事は11名、監事は2名です。

2. 上記の内訳は、「基本報酬」211百万円、「賞与」7百万円、「退職慰労金」65百万円となっております。

なお、「賞与」は当年度中に支払った賞与のうち当年度に帰属する部分の金額（過年度に繰り入れた引当金を除く）です。

「退職慰労金」は、当年度に繰り入れた役員退職慰労引当金の合計額です。

3. 使用人兼務役員の使用人としての報酬等を含めております。

(3) その他

「信用金庫法施行規則第132条第1項第6号等の規定に基づき、報酬等に関する事項であって、信用金庫等の業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与えるものとして金融庁長官が別に定めるものを定める件」（平成24年3月29日付金融庁告示第22号）第2条第1項第4号及び第6号に該当する事項はありませんでした。

■ 対象職員等

当金庫における報酬体系の開示対象となる「対象職員等」は、当金庫の非常勤役員、当金庫の職員であって、対象役員が受ける報酬等と同等額以上の報酬等を受ける者のうち、当金庫の業務及び財産の状況に重要な影響を与える者をいいます。

なお、平成30年度において、対象職員等に該当する者はいませんでした。

(注) 1. 対象職員等には、期中に退任・退職した者も含めております。

2. 「同等額」は、平成30年度に対象役員に支払った報酬等の平均額としております。

3. 平成30年度において対象役員が受ける報酬等と同等額以上の報酬等を受ける者はいませんでした。

主要な業務の状況を示す指標

業務粗利益

(単位：千円)

	平成 29 年度	平成 30 年度
資金運用収支	8,132,150	8,298,444
資金運用収益	8,391,874	8,476,365
資金調達費用	259,723	177,920
役員取引等収支	379,760	307,317
役員取引等収益	1,255,366	1,265,895
役員取引等費用	875,606	958,577
その他業務収支	535,294	753,735
その他業務収益	563,202	761,035
その他業務費用	27,907	7,299
業務粗利益	9,047,205	9,359,498
業務粗利益率	1.03%	1.05%

(注) 1. 業務粗利益率 = 業務粗利益 ÷ 資金運用勘定平均残高 × 100
2. 国内業務部門と国際業務部門の区別はしていません。

利鞘

(単位：%)

	平成 29 年度	平成 30 年度
総資金利鞘	△ 0.02	0.01
資金運用利回	0.96	0.95
資金調達原価率	0.98	0.94

(注) 総資金利鞘 = 資金運用利回 - 資金調達原価率
資金運用利回 = 資金運用収益 ÷ 資金運用勘定平残 × 100
資金調達原価率 = (資金調達費用 - 金銭の信託見合費用 + 経費) ÷ 資金調達勘定平残 × 100

利益率

(単位：%)

	平成 29 年度	平成 30 年度
総資産経常利益率	0.13	0.15
総資産当期純利益率	0.09	0.11

(注) 総資産経常(当期純)利益率 = $\frac{\text{経常(当期純)利益}}{\text{総資産(債務保証見返を除く)平均残高}} \times 100$

資金運用収支の内訳

(単位 残高：百万円、利息：千円、%)

	平成 29 年度			平成 30 年度		
	平均残高	利息	利回り	平均残高	利息	利回り
資金運用勘定	873,891	8,391,874	0.96	886,364	8,476,365	0.95
うち貸出金	412,594	5,469,241	1.32	424,948	5,553,123	1.30
うち預け金	247,708	628,716	0.25	249,672	596,437	0.23
うち有価証券	210,002	2,157,691	1.02	208,032	2,190,802	1.05
資金調達勘定	855,455	259,723	0.03	866,998	177,920	0.02
うち預金積金	838,742	248,604	0.02	845,557	167,870	0.01
うち借入金	2,652	8,174	0.30	2,247	7,180	0.31

(注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高(平成 29 年度 929 百万円、平成 30 年度 940 百万円)を、控除して表示しております。
2. 国内業務部門と国際業務部門の区別はしていません。

受取利息・支払利息の増減

(単位：千円)

	平成 29 年度			平成 30 年度		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	305,559	△ 513,163	△ 207,604	119,395	△ 34,904	84,491
うち貸出金	227,035	△ 411,393	△ 184,358	162,183	△ 78,301	83,882
うち預け金	52,516	—	52,516	4,950	△ 37,229	△ 32,279
うち有価証券	△ 71,948	△ 13,289	△ 85,237	△ 20,379	53,490	33,111
支払利息	15,637	△ 182,597	△ 166,960	3,459	△ 85,262	△ 81,803
うち預金積金	8,377	△ 179,091	△ 170,714	2,004	△ 82,738	△ 80,734
うち借入金	3,265	478	3,743	△ 1,282	288	△ 994

(注) 1. 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、両者の増減割合に応じて按分しております。
2. 国内業務部門と国際業務部門の区別はしていません。

預貸率・預証率

(単位：%)

	平成 29 年度		平成 30 年度	
	期末	期中	期末	期中
預貸率	51.12	49.19	51.40	50.25
預証率	25.61	25.03	25.96	24.60

預金に関する指標

預金積金及び譲渡性預金平均残高

(単位：百万円)

	平成 29 年度	平成 30 年度
流動性預金	352,276	379,334
うち有利息預金	321,494	348,327
定期性預金	483,856	463,388
うち固定金利定期預金	456,813	437,661
うち変動金利定期預金	26	16
その他	2,609	2,834
小計	838,742	845,557
譲渡性預金	—	—
合計	838,742	845,557

- (注) 1. 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金
 2. 定期性預金 = 定期預金 + 定期積金
 3. 固定金利定期預金：預入時に満期日までの利率が確定する定期預金。
 4. 変動金利定期預金：預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期預金。
 5. 国内業務部門と国際業務部門の区分はしていません。

預金会員・会員外別残高

(単位：百万円)

	平成 29 年度	平成 30 年度
会員	278,958	286,321
会員外	550,258	562,642
合計	829,216	848,964

預金科目別残高

(単位：百万円)

	平成 29 年度	平成 30 年度
当座預金	13,591	13,935
普通預金	352,130	381,444
貯蓄預金	2,908	2,685
通知預金	249	99
別段預金	2,359	3,409
納税準備預金	368	412
定期預金	431,162	422,056
定期積金	26,428	24,911
外貨預金	18	10
合計	829,216	848,964

定期預金残高

(単位：百万円)

	平成 29 年度	平成 30 年度
固定金利定期預金	431,142	422,036
変動金利定期預金	16	16
その他	3	3
合計	431,162	422,056

預金人格別残高

(単位：口数：口、残高：百万円)

	平成 29 年度		平成 30 年度	
	口数	残高	口数	残高
個人	767,470	670,938	736,201	674,534
一般法人	41,130	116,249	40,950	123,614
地方公共団体	637	41,746	650	50,296
金融機関	48	281	36	518
合計	809,285	829,216	777,837	848,964

貸出金等に関する指標

貸出金平均残高

(単位：百万円)

	平成 29 年度	平成 30 年度
割引手形	9,881	9,973
手形貸付	14,300	14,970
証書貸付	380,201	391,048
当座貸越	8,211	8,955
合 計	412,594	424,948

(注) 国内業務部門と国際業務部門の区分はしていません。

貸出金残高

(単位：百万円)

	平成 29 年度	平成 30 年度
固定金利貸出金	159,266	156,133
変動金利貸出金	264,634	280,292
合 計	423,900	436,426

貸出金担保別残高

(単位：百万円)

	平成 29 年度	平成 30 年度
当金庫預金積金	6,587	6,350
有価証券	18	3
不動産	98,185	101,099
信用保証協会・信用保険	89,733	98,333
保証	112,701	110,358
信用	116,333	119,980
その他	339	300
合 計	423,900	436,426

貸出金使途別残高

(単位：百万円、構成比：%)

	平成 29 年度		平成 30 年度	
	残高	構成比	残高	構成比
設備資金	242,087	57.1	249,335	57.1
運転資金	181,813	42.8	187,090	42.8
合 計	423,900	100.0	436,426	100.0

貸出金会員・会員外別残高

(単位：百万円)

	平成 29 年度	平成 30 年度
会員	356,429	367,996
会員外	67,470	68,429
合 計	423,900	436,426

消費者ローン・住宅ローン残高

(単位：百万円)

	平成 29 年度	平成 30 年度
住宅ローン	147,532	150,321
カードローン	3,567	3,699
個人ローン	4,581	5,153
教育ローン	517	525
自動車ローン	2,560	2,305
合 計	158,760	162,005

債務保証見返担保別内訳

(単位：百万円)

	平成 29 年度	平成 30 年度
当金庫預金積金	16	9
不動産	7	13
信用保証協会・信用保険	16	15
保証	140	253
信用	32	28
合 計	213	321

貸出金業種別内訳

(単位 貸出先数：先、残高：百万円、構成比：%)

	平成 29 年度			平成 30 年度		
	貸出先数	残高	構成比	貸出先数	残高	構成比
製造業	1,619	38,299	9.0	1,621	38,682	8.8
農業、林業	6	29	0.0	8	47	0.0
漁業	—	—	—	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—
建設業	1,860	36,585	8.6	1,997	38,207	8.7
電気、ガス、熱供給、水道業	2	76	0.0	2	60	0.0
情報通信業	36	312	0.0	44	358	0.0
運輸業、郵便業	259	8,737	2.0	283	10,065	2.3
卸売業、小売業	1,114	20,073	4.7	1,141	21,543	4.9
金融業、保険業	18	15,338	3.6	23	18,255	4.1
不動産業	830	78,295	18.4	865	78,998	18.1
（うち市町村公社）	7	9,863	2.3	6	8,312	1.9
物品賃貸業	24	1,515	0.3	22	1,169	0.2
学術研究、専門・技術サービス業	66	720	0.1	72	848	0.1
宿泊業	2	348	0.0	2	279	0.0
飲食業	254	1,590	0.3	268	1,974	0.4
生活関連サービス業、娯楽業	162	3,558	0.8	169	3,770	0.8
教育、学習支援業	42	2,555	0.6	45	2,561	0.5
医療、福祉	159	7,213	1.7	184	7,140	1.6
その他サービス	681	7,549	1.7	708	8,083	1.8
小 計	7,134	222,801	52.5	7,454	232,049	53.1
地方公共団体	21	34,395	8.1	21	34,789	7.9
個人（住宅・消費・納税資金等）	19,314	166,704	39.3	19,060	169,587	38.8
合 計	26,469	423,900	100.0	26,535	436,426	100.0

(注) 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

貸倒引当金内訳

(単位：百万円)

		期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	平成 29 年度	198	108	—	198	108
	平成 30 年度	108	109	—	108	109
個別貸倒引当金	平成 29 年度	1,991	1,671	337	1,653	1,671
	平成 30 年度	1,671	1,352	236	1,434	1,352
合 計	平成 29 年度	2,189	1,780	337	1,852	1,780
	平成 30 年度	1,780	1,461	236	1,543	1,461

貸出金償却

(単位：千円)

	平成 29 年度	平成 30 年度
貸出金償却額	107	382

有価証券等に関する指標

有価証券残高及び平均残高

(単位：百万円)

	平成 29 年度		平成 30 年度	
	残高	平均残高	残高	平均残高
国債	22,330	21,378	22,795	21,799
地方債	58,281	60,920	46,663	50,669
社債	93,809	98,620	84,994	88,258
株式	2,481	2,003	2,644	2,726
外国証券	26,082	23,219	45,394	30,474
投資信託	9,417	3,858	17,929	14,100
その他の証券	1	2	1	1
合計	212,405	210,002	220,423	208,032

(注) 商品有価証券については該当ありません。

有価証券の時価情報

1. 売買目的有価証券・・・該当ありません。
2. 満期保有目的の債券で時価のあるもの・・・該当ありません。
3. 子会社・子法人等株式及び関連法人等株式で時価のあるもの・・・該当ありません。
4. その他有価証券で時価のあるもの

(単位：百万円)

	種類	平成 29 年度			平成 30 年度		
		貸借対照表計上額	取得原価	差額	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	1,040	703	336	564	359	204
	債券	138,554	132,432	6,122	147,255	141,215	6,040
	国債	18,351	17,247	1,104	22,795	21,261	1,534
	地方債	46,973	44,088	2,885	43,916	41,509	2,407
	社債	73,229	71,096	2,132	80,543	78,444	2,098
	その他	24,042	22,955	1,086	49,547	47,097	2,450
	小計	163,637	156,091	7,545	197,367	188,672	8,695
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	1,322	1,517	△ 195	1,963	2,427	△ 464
	債券	35,868	36,394	△ 526	7,198	7,256	△ 58
	国債	3,979	4,069	△ 89	—	—	—
	地方債	11,307	11,552	△ 245	2,746	2,775	△ 28
	社債	20,580	20,772	△ 191	4,451	4,480	△ 29
	その他	11,457	11,620	△ 163	13,775	14,005	△ 229
	小計	48,648	49,533	△ 885	22,937	23,689	△ 752
合計		212,285	205,624	6,660	220,304	212,361	7,943

- (注) 1. 貸借対照表計上額は、期末日における市場価格等に基づいております。
 2. 上記の「その他」は外国証券及び投資信託等です。
 3. 時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券は本表には含めておりません。

5. 時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券

(単位：百万円)

内 容	平成 29 年度 貸借対照表計上額	平成 30 年度 貸借対照表計上額
非上場株式	118	117
組合出資金	1	1

有価証券の残存期間別残高

平成 29 年度

(単位：百万円)

	1 年以下	1 年超 3 年以下	3 年超 5 年以下	5 年超 7 年以下	7 年超 10 年以下	10 年超	期間の定め のないもの	合計
国債	—	—	2	1,026	9	20,278	—	21,316
地方債	3,680	8,292	2,996	1,352	6,880	32,438	—	55,641
社債	11,418	17,350	12,388	17,380	18,398	14,931	—	91,868
株式	—	—	—	—	—	—	2,339	2,339
外国証券	3,300	2,902	5,929	2,860	6,571	2,601	1,000	25,165
その他の証券	—	1	—	—	5,000	—	4,411	9,413

平成 30 年度

(単位：百万円)

	1 年以下	1 年超 3 年以下	3 年超 5 年以下	5 年超 7 年以下	7 年超 10 年以下	10 年超	期間の定め のないもの	合計
国債	—	—	1,023	9	1,071	19,155	—	21,261
地方債	4,456	5,581	1,542	2,376	7,003	23,325	—	44,284
社債	9,600	12,416	19,860	13,546	15,212	12,289	—	82,925
株式	—	—	—	—	—	—	2,904	2,904
外国証券	1,601	6,469	5,109	10,761	16,745	1,465	2,000	44,152
その他の証券	—	1	—	—	5,000	—	11,949	16,950

(注) 残存期間別残高は取得原価で表示しております。

金銭の信託の時価情報

1. 運用目的の金銭の信託・・・該当ありません。
2. その他の金銭の信託・・・該当ありません。
3. 満期保有目的の金銭の信託・・・該当ありません。

デリバティブ取引

1. 金利関連取引・・・該当ありません。
2. 通貨関連取引・・・該当ありません。
3. 株式関連取引・・・該当ありません。
4. 債券関連取引・・・該当ありません。
5. 商品関連取引およびクレジットデリバティブ取引・・・該当ありません。

自己資本の充実の状況

単体における事業年度の開示事項

1. 自己資本の構成に関する開示事項

(単位：百万円)

項目	平成 29 年度	経過措置による 不算入額	平成 30 年度
	コア資本に係る基礎項目 (1)		
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	39,629		40,626
うち、出資金及び資本剰余金の額	2,125		2,126
うち、利益剰余金の額	37,568		38,541
うち、外部流出予定額 (△)	63		42
うち、上記以外に該当するものの額	△ 0		△ 0
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	182		185
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	182		185
うち、適格引当金コア資本算入額	—		—
適格旧資本調達手段の額のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—		—
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—		—
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の 45% に相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—		—
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	39,812		40,811
コア資本に係る調整項目 (2)			
無形固定資産 (モーゲージ・サービシング・ライセンスに係るものを除く。) の額の合計額	99	24	122
うち、のれんに係るものの額	—	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライセンスに係るもの以外の額	99	24	122
繰延税金資産 (一時差異に係るものを除く。) の額	—	—	—
適格引当金不足額	—	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—	—
前払年金費用の額	221	55	292
自己保有普通出資等 (純資産の部に計上されるものを除く。) の額	—	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—	—
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額	—	—	—
信用金庫連合会の対象普通出資等の額	—	—	—
特定項目に係る 10% 基準超過額	—	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	—	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライセンスに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—	—
うち、繰延税金資産 (一時差異に係るものに限る。) に関連するものの額	—	—	—
特定項目に係る 15% 基準超過額	—	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	—	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライセンスに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—	—
うち、繰延税金資産 (一時差異に係るものに限る。) に関連するものの額	—	—	—
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	320		415
自己資本			
自己資本の額 ((イ) - (ロ)) (ハ)	39,491		40,396
リスク・アセット等 (3)			
信用リスク・アセットの額の合計額	346,445		367,911
資産 (オン・バランス) 項目	346,092		367,156
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	△ 6,529		△ 4,141
うち、無形固定資産 (のれん及びモーゲージ・サービシング・ライセンスに係るものを除く。)	24		
うち、繰延税金資産	—		
うち、前払年金費用	55		
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△ 6,609		△ 4,141
うち、上記以外に該当するものの額	—		—
オフ・バランス取引等項目	303		755
CVA リスク相当額を 8% で除して得た額	48		—
中央清算機関関連エクスポージャーに係る信用リスク・アセットの額	0		—
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を 8% で除して得た額	16,512		16,186
信用リスク・アセット調整額	—		—
オペレーショナル・リスク相当額調整額	—		—
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)	362,957		384,098
自己資本比率			
自己資本比率 ((ハ) / (ニ))	10.88%		10.51%

(注) 自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第 89 条第 1 項において準用する銀行法第 14 条の 2 の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準 (平成 18 年金融庁告示第 21 号)」に基づき算出しております。

なお、当金庫は国内基準により自己資本比率を算出しております。

2. 定量的な開示事項

(1) 自己資本の充実度に関する事項

(単位：百万円)

	平成 29 年度		平成 30 年度	
	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額
イ. 信用リスク・アセット、所要自己資本の額の合計	346,445	13,857	367,911	14,716
①標準的手法が適用されるポートフォリオごとのエクスポージャー	352,926	14,117	356,958	14,278
ソブリン向け	2,121	84	1,587	63
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	46,710	1,868	52,679	2,107
法人等向け	74,496	2,979	77,309	3,092
中小企業等向け及び個人向け	87,668	3,506	89,522	3,580
抵当権付住宅ローン	22,622	904	23,383	935
不動産取得等事業向け	72,797	2,911	72,744	2,909
3カ月以上延滞等	1,210	48	1,598	63
取立未済手形	52	2	72	2
信用保証協会等による保証付	2,542	101	3,061	122
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—	—	—
出資等	6,354	254	2,589	103
出資等のエクスポージャー	6,354	254	2,589	103
重要な出資のエクスポージャー	—	—	—	—
上記以外	36,348	1,453	32,408	1,296
他の金融機関等の対象資本等調達手段のうち対象普通出資等及びその他外部 TLAC 関連調達手段に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー	11,016	440	6,902	276
信用金庫連合会の対象普通出資等であってコア資本に係る調整項目の額に算入されなかった部分に係るエクスポージャー	3,486	139	3,486	139
特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー	1,144	45	962	38
総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有している他の金融機関等に係るその他外部 TLAC 関連調達手段に関するエクスポージャー			—	—
総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有していない他の金融機関等に係るその他外部 TLAC 関連調達手段のうち、その他外部 TLAC 関連調達手段に係る 5%基準額を上回る部分に係るエクスポージャー			—	—
上記以外のエクスポージャー	20,701	828	21,057	842
②証券化エクスポージャー	—	—	—	—
証券化				
STC 要件適用分			—	—
非 STC 要件適用分	—	—	—	—
再証券化	—	—	—	—
③-1. 複数の資産を裏付とする資産（所謂ファンド）のうち、個々の資産の把握が困難な資産	—	—	—	—
③-2. リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー			15,093	603
ルック・スルー方式			15,093	603
マンドート方式			—	—
蓋然性方式（250%）			—	—
蓋然性方式（400%）			—	—
フォールバック方式（1250%）			—	—
④経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	80	3	—	—
⑤他の金融機関等の対象資本等調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	△ 6,609	△ 264	△ 4,141	△ 165
⑥CVA リスク相当額を 8%で除して得た額	48	1	—	—
⑦中央清算機関関連エクスポージャー	0	0	—	—
ロ. オペレーショナル・リスク相当額を 8%で除して得た額	16,512	660	16,186	647
ハ. 単体総所要自己資本額（イ + ロ）	362,957	14,518	384,098	15,363

(注) 1. 所要自己資本の額 = 信用リスクアセットの額 × 4%

2. 「エクスポージャー」とは、資産（派生商品取引によるものを除く）並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額等のことです。

3. 「ソブリン」とは、我が国又は外国の中央政府及び中央銀行、国際決済銀行等、我が国の地方公共団体、外国の中央政府等以外の公共部門、国際開発銀行、地方公共団体金融機構、我が国の政府関係機関、地方三公社のことです。

4. 「3カ月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「我が国の中央政府及び中央銀行向け」から「法人等向け」（「国際決済銀行等向け」を除く）においてリスク・ウェイトが 150% 以上になったエクスポージャーのことです。

5. 当金庫は基礎的手法によりオペレーショナル・リスク相当額を算定しております。

$$\text{＜オペレーショナル・リスク相当額（基礎的手法）の算定方法＞}$$

$$\frac{\text{粗利益（直近3年間のうち正の値の合計額）} \times 15\%}{\text{直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数}}$$

6. オフ・バランス取引は「イ①上記以外」に含めております。

7. 単体総所要自己資本額 = 単体自己資本比率の分母の額 × 4%

(2) 信用リスクに関する事項

(リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー及び証券化エクスポージャーを除く)

イ. 信用リスクに関するエクスポージャー及び主な種類別の期末残高

<業種別及び残存期間別>

(単位：百万円)

業種区分 期間区分	信用リスクエクスポージャー期末残高											
	貸出金、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランス取引				債券				デリバティブ取引		3カ月以上延滞エクスポージャー	
	国内		国外		国内		国外		平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度
エクスポージャー区分	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度
製造業	65,002	64,549	38,299	38,682	21,367	20,644	5,336	5,222	—	—	668	394
農業、林業	29	47	29	47	—	—	—	—	—	—	—	—
漁業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
建設業	39,684	40,806	36,585	38,207	1,099	1,099	2,000	1,500	—	—	203	179
電気、ガス、熱供給、水道業	3,197	3,878	76	60	3,121	3,818	—	—	—	—	—	—
情報通信業	1,817	1,559	312	358	1,305	1,201	200	—	—	—	—	4
運輸業、郵便業	15,153	15,967	8,737	10,065	4,362	4,048	2,054	1,854	—	—	154	163
卸売業、小売業	26,418	28,774	20,073	21,543	3,936	4,530	2,408	2,700	—	—	265	234
金融業、保険業	255,429	294,952	15,338	18,255	12,934	10,122	4,877	23,184	—	—	—	—
不動産業	86,082	87,065	78,295	78,998	7,487	7,567	300	500	—	—	217	448
物品賃貸業	1,515	1,169	1,515	1,169	—	—	—	—	—	—	—	—
学術研究、専門・技術サービス業	720	848	720	848	—	—	—	—	—	—	0	—
宿泊業	348	279	348	279	—	—	—	—	—	—	—	—
飲食業	1,590	1,974	1,590	1,974	—	—	—	—	—	—	50	61
生活関連サービス業、娯楽業	3,558	3,770	3,558	3,770	—	—	—	—	—	—	11	10
教育、学習支援業	2,555	2,561	2,555	2,561	—	—	—	—	—	—	—	—
医療、福祉	7,213	7,140	7,213	7,140	—	—	—	—	—	—	23	—
その他のサービス	8,049	8,883	7,549	8,083	500	500	—	300	—	—	92	95
国・地方公共団体等	154,096	136,618	34,395	34,789	112,711	94,937	6,989	6,891	—	—	—	—
個人	166,704	169,587	166,704	169,587	—	—	—	—	—	—	269	540
その他	38,299	43,981	213	321	—	—	1,000	—	—	—	—	—
業種別合計	877,473	914,423	424,114	436,748	168,826	148,471	25,165	42,152	—	—	1,958	2,132
1年以下	177,483	178,844	34,809	34,330	15,099	14,056	3,300	1,601	—	—	—	—
1年超3年以下	75,118	74,402	23,370	21,834	25,643	17,997	2,902	6,469	—	—	—	—
3年超5年以下	61,443	60,884	34,126	33,347	15,387	22,426	5,929	5,109	—	—	—	—
5年超7年以下	62,367	61,243	26,748	30,429	19,758	15,932	2,860	10,761	—	—	—	—
7年超10年以下	78,195	115,537	28,134	30,481	25,289	23,288	6,571	16,745	—	—	—	—
10年超	370,437	364,957	268,187	276,721	67,648	54,771	2,601	1,465	—	—	—	—
期間の定めのないもの	52,426	58,552	8,735	9,602	—	—	1,000	—	—	—	—	—
残存期間別合計	877,473	914,423	424,114	436,748	168,826	148,471	25,165	42,152	—	—	—	—

(注) 1. オフ・バランス取引は、デリバティブ取引を除く。

2. 「3カ月以上延滞エクスポージャー」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞しているエクスポージャーのことです。

3. 上記の「その他」は、裏付けとなる個々の資産の全部又は一部を把握することや、業種区分に分類することが、困難なエクスポージャーです。具体的には、現金、買入金銭債権、その他資産、有形・無形固定資産、繰延税金資産、債券以外の有価証券およびオフ・バランス取引が含まれます。

4. CVAリスク及び中央清算機関関連エクスポージャーは含まれておりません。

5. 有価証券等は資本直入前、貸出金等は引当金控除前で集計しております。

6. 業種区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

※当金庫は、国内の限定されたエリアにて事業活動を行っているため、「地域別」の区分は省略しております。

ロ. 一般貸倒引当金、個別貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額……49 ページ参照

八．業種別の個別貸倒引当金及び貸出金償却の残高等

(単位：百万円)

	個別貸倒引当金										貸出金償却	
	期首残高		当期増加額		当期減少額				期末残高			
					目的使用		その他					
	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度
製造業	554	500	100	38	119	83	34	66	500	389	0	—
農業、林業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
漁業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鉱業、採石業、 砂利採取業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
建設業	155	124	54	42	76	40	9	16	124	110	0	—
電気、ガス、 熱供給、水道業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
情報通信業	0	0	—	3	—	—	0	0	0	3	—	—
運輸業、郵便業	111	96	1	5	—	—	16	11	96	90	—	0
卸売業、小売業	260	207	27	36	71	70	9	5	207	167	—	0
金融業、保険業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
不動産業	395	345	9	47	0	14	58	77	345	300	0	0
物品賃貸業	34	23	—	—	—	—	10	11	23	11	—	—
学術研究、 専門・技術サービス業	—	—	—	0	—	—	—	—	—	0	—	0
宿泊業	73	48	—	—	—	—	25	28	48	19	—	—
飲食業	24	26	8	6	6	—	0	0	26	33	—	0
生活関連サービス業、 娯楽業	74	13	0	2	59	0	1	0	13	14	—	—
教育、学習支援業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
医療、福祉	53	53	0	—	—	—	0	4	53	48	0	—
その他のサービス	74	71	4	10	—	—	7	12	71	69	—	0
国・地方公共団体等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
個人	180	160	4	31	2	26	21	71	160	93	—	0
合 計	1,991	1,671	212	225	337	236	195	307	1,671	1,352	0	0

- (注) 1. 業種は日本標準産業分類に準じて区分しております。
2. 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

二．リスク・ウェイトの区分ごとのエクスポージャーの額等

(単位：百万円)

告示で定めるリスク・ウェイト区分 (%)	エクスポージャーの額			
	平成29年度		平成30年度	
	格付適用有り	格付適用無し	格付適用有り	格付適用無し
0%	—	143,842	—	138,815
10%	—	60,723	—	59,918
20%	7,270	245,607	7,539	273,123
35%	—	64,886	—	67,034
50%	45,476	310	42,451	3,780
75%	—	135,430	—	138,274
100%	7,167	159,544	9,384	156,865
150%	—	659	—	940
200%	—	—	—	—
250%	—	4,864	—	3,146
1,250%	—	—	—	—
合 計		875,784		901,273

- (注) 1. 格付は適格格付機関が付与しているものに限ります。
2. エクスポージャーは信用リスク削減手法勘案後のリスクウェイトに区分しております。
3. CVA リスク及び中央清算機関関連エクスポージャーは含まれておりません。

(3) 信用リスク削減手法に関する事項

信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー

(単位：百万円)

	適格金融資産担保		保証		クレジット・デリバティブ	
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー	14,021	13,927	63,774	60,852	—	—
①ソブリン向け	—	—	21,220	18,661	—	—
②金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け	—	—	—	—	—	—
③法人向け	5,149	5,149	8,124	5,625	—	—
④中小企業等・個人向け	7,239	7,040	33,362	35,146	—	—
⑤抵当権付住宅ローン	249	224	—	—	—	—
⑥不動産取得等事業向け	1,302	1,425	0	—	—	—
⑦3カ月以上延滞等	2	13	22	76	—	—
⑧上記以外	77	75	1,043	1,342	—	—

(注) 当金庫は、適格金融資産担保について簡便手法を用いています。

(4) 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項……該当ありません。

(5) 証券化エクスポージャーに関する事項……該当ありません。

(6) 出資等エクスポージャーに関する事項

イ．貸借対照表計上額及び時価

(単位：百万円)

	平成 29 年度		平成 30 年度	
	貸借対照表計上額	時価	貸借対照表計上額	時価
上場株式等	6,093	6,093	13,354	13,354
非上場株式等	3,564	3,564	3,563	3,563
合計	9,657	9,657	16,917	16,917

ロ．出資等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

(単位：百万円)

	売却額			株式等償却
		売却益	売却損	
平成 29 年度	2,811	308	31	—
平成 30 年度	1,380	107	6	0

ハ．貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

	平成 29 年度	平成 30 年度
評価損益	143	498

ニ．貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額……該当ありません。

(7) リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項

(単位：百万円)

	平成 29 年度	平成 30 年度
ルック・スルー方式を適用するエクスポージャー		18,949
マンドート方式を適用するエクスポージャー		—
蓋然性方式 (250%) を適用するエクスポージャー		—
蓋然性方式 (400%) を適用するエクスポージャー		—
フォールバック方式 (1250%) を適用するエクスポージャー		—

開示項目一覧

このディスクロージャー誌は、信用金庫法第89条（銀行法第21条準用）、金融再生法第7条に基づき作成しております。

I. 単体ベースのディスクロージャー項目	ページ	III. 信用金庫法施行規則第132条により「自己資本の充実の状況等 について金融庁長官が別に定める事項」の告示に基づく開示 (単体における事業年度の開示事項)	ページ
1. 金庫の概況及び組織		1. 自己資本の構成に関する開示事項	52
(1) 事業の組織	3	2. 定性的な開示事項	
(2) 理事及び監事の氏名及び役職名	3	(1) 自己資本調達手段の概要	27
(3) 事務所の名称及び所在地	58～59	(2) 自己資本の充実度に関する評価方法の概要	27
2. 金庫の主要な事業の内容	2、32～35	(3) 信用リスクに関する事項	31
3. 金庫の主要な事業に関する事項		①リスク管理の方針及び手続きの概要	
(1) 直近の事業年度における事業の概況	26	②標準的手法が適用されるポートフォリオに関する事項 ・リスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関等の名称	31
(2) 直近の5事業年度における主要な事業の状況	26	(4) 信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び 手続きの概要	31
①経常収益		(5) オペレーショナル・リスクに関する事項	31
②経常利益、業務純益、当期純利益		①リスク管理の方針及び手続きの概要	
③出資総額、出資総口数		②オペレーショナル・リスク相当額の算出に使用する手法の名称	
④純資産額、総資産額		(6) 出資等又は株式等エクスポージャーに関する リスク管理の方針及び手続きの概要	31
⑤預金積金残高		(7) 金利リスクに関する事項	30
⑥貸出金残高		①リスク管理の方針及び手続きの概要	
⑦有価証券残高		②金利リスクの算定手法の概要	
⑧単体自己資本比率		3. 定量的な開示事項	
⑨出資に対する配当金		(1) 自己資本の充実度に関する事項	53
⑩職員数		①信用リスクに対する所要自己資本の額及び標準的手法が 適用されるポートフォリオの区分ごとの内訳	
(3) 直近の2事業年度における事業の状況	46～51	②オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額及び 基礎的手法による額	
①主要な業務の状況を示す指標		③単体所要総自己資本額	
・業務粗利益、業務粗利益率		(2) 信用リスクに関する事項（リスク・ウェイトのみなし計算が適用される エクスポージャー及び証券化エクスポージャーを除く）	54、55
・資金運用収支、役員取引等収支、その他業務収支		①信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高	
・資金運用・調達勘定の平均残高、利息、利回り、資金利ざや		②信用リスクエクスポージャーの業種別、残存期間別の額及び 主な種類別の内訳	
・受取利息及び支払利息の増減		③3カ月以上延滞エクスポージャーの期末残高及び業種別の内訳	
・総資産経常利益率、総資産当期純利益率		④一般貸倒引当金、個別貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額 並びに業種別の期末残高及び期中の増減額	
②預金に関する指標		⑤業種別の貸出金償却の額	
・預金の平均残高		⑥標準的手法が適用されるエクスポージャーのリスク・ウェイトの 区分ごとの信用リスク削減手法の効果を勘案した後の残高	
・定期預金の残高		(3) 信用リスク削減手法に関する事項	56
③貸出金等に関する指標		①標準的手法が適用されるポートフォリオの適格金融資産担保 の信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額	
・貸出金の平均残高		②標準的手法が適用されるポートフォリオの保証又はクレジット・ デリバティブが適用されたエクスポージャーの額	
・固定金利・変動金利貸出金の残高		(4) 出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項	56
・担保の種類別の貸出金残高及び債務保証見返額		①貸借対照表計上額、時価	
・使途別の貸出金残高		②売却及び償却に伴う損益の額	
・業種別の貸出金残高及び貸出金の総額に占める割合		③貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない 評価損益の額	
・預貸率の期末値及び期中平均値		④貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額	
④有価証券等に関する指標		(5) リスク・ウェイトのみなし計算が適用される エクスポージャーに関する事項	56
・有価証券の種類別の平均残高		(6) 金利リスクに関して内部管理上使用した金利ショックに対する 経済的価値の増減額	30
・預証率の期末値及び期中平均値			
・有価証券の残存期間別残高			
4. 金庫の事業の運営に関する事項			
(1) リスク管理の体制	29～31		
(2) 法令遵守の体制	19		
(3) 中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況	6～9		
(4) 金融 ADR 制度への対応	14		
5. 金庫の直近の2事業年度における財産の状況			
(1) 貸借対照表、損益計算書、剰余金処分計算書	38～41		
(2) リスク管理債権の額	28		
(3) 自己資本の充実の状況	27、52		
(4) 有価証券、金銭の信託、デリバティブ取引等に関する取得価格、 時価及び評価損益	50～51		
(5) 貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額	49		
(6) 貸出金償却の額	49		
(7) 会計監査人の監査	41		
6. 報酬等に関する事項	45		
II. 金融再生法に基づく債権の開示			
金融再生法開示債権	28		

(注) 当金庫に該当しない項目の記載を省略しております。

本 部

地区		住所	電話番号
川口市	本 部	川口市栄町 3 丁目 9 番 3 号	048(253)3333(代)

店舗一覧

(平成 31 年 4 月 1 日現在)

地区	店舗名	住所	電話番号	ATM	サンデー バンキング	定期性 預金取扱	両替機	貸金庫
	② 仲町支店	川口市仲町 15 番 8 号	048(253)4441(代)	○	○	○	○	○
	③ 飯塚支店	川口市飯塚 2 丁目 9 番 36 号	048(252)2376(代)	○	○	○	○	○
	④ 本町東支店	川口市末広 1 丁目 12 番 3 号	048(222)3101・7101(代)	○	○	○	○	○
	⑤ 芝支店	川口市芝 2 丁目 24 番 17 号	048(265)3333(代)	○	○	○	○	○
	⑥ 柳崎支店	川口市北園町 2 番 1 号	048(268)1222(代)	○	○	○	○	○
	⑦ 鳩ヶ谷支店	川口市大字里 335 番地 2	048(285)2811(代)	○	○	○	○	○
	⑧ 木曾呂支店	川口市大字差間 185 番地 3	048(295)6111(代)	○	○	○	○	○
	⑨ 川口中央支店	川口市中青木 5 丁目 9 番 4 号	048(256)2522(代)	○	○	○	○	○
	⑩ 東川口支店	川口市東川口 3 丁目 7 番 5 号	048(295)8511(代)	○	○	○	○	○
	⑪ 赤井支店	川口市赤井 4 丁目 16 番 1 号	048(281)3711(代)	○	○	○	○	○
	⑫ 東本郷支店	川口市大字東本郷 1226 番地 1	048(283)2727(代)	○	○	○	○	○
蕨市	⑬ 蕨支店	蕨市中央 5 丁目 3 番 12 号	048(431)2271(代)	○	○	○	○	○
戸田市	⑭ 戸田支店	戸田市下戸田 1 丁目 18 番 13 号	048(442)2608(代)	○	○	○	○	○
	⑮ 戸田北支店	戸田市美女木 1 丁目 10 番地 21	048(421)8202(代)	○	○	○	○	○
志木市	⑯ 志木支店	志木市本町 2 丁目 5 番 40 号	048(471)2525(代)	○	○	○	○	○
	⑰ 宗岡支店	志木市中宗岡 4 丁目 16 番 10 号	048(474)2121(代)	○	○	○	○	○
	⑱ 志木北支店	志木市上宗岡 2 丁目 18 番 30 号	048(474)8511(代)	○	○	○	○	○
和光市	⑲ 和光支店	和光市本町 18 番 7 号	048(461)4187(代)	○	○	○	○	○
越谷市	⑳ 蒲生支店	越谷市蒲生寿町 13 番 50 号	048(989)1231(代)	○	○	○	○	○
	㉑ 蒲生西口支店	越谷市蒲生茜町 16 番地 22	048(986)5181(代)	○	○	○	○	○
	㉒ 南越谷支店	越谷市南越谷 4 丁目 11 番地 1	048(985)1772(代)	○	○	○	○	○
	㉓ せんげん台支店	越谷市千間台東 2 丁目 14 番地 6	048(971)0111(代)	○	○	○	○	○
さいたま市	㉔ 大宮支店	さいたま市北区榎引町 2 丁目 254 番地	048(666)4311(代)	○	○	○	○	○
	㉕ 大和田支店	さいたま市見沼区大和田町 1 丁目 1431 番地	048(686)3450(代)	○	○	○	○	○
	㉖ 東大宮支店	さいたま市見沼区東大宮 6 丁目 30 番地 39	048(685)1131(代)	○	○	○	○	○
	㉗ 土呂支店	さいたま市北区土呂町 2 丁目 18 番地 3	048(653)6211(代)	○	○	○	○	○
	㉘ 与野支店	さいたま市中央区下落合 7 丁目 1 番 30 号	048(833)9111(代)	○	○	○	○	○
	㉙ 北浦和支店	さいたま市浦和区常盤 9 丁目 33 番 9 号	048(833)1171(代)	○	○	○	○	○
	㉚ 武蔵浦和支店	さいたま市南区沼影 1 丁目 2 番 16 号	048(866)3611(代)	○	○	○	○	○
	㉛ 浦和中尾支店	さいたま市緑区大字中尾 109 番地 2	048(874)2311(代)	○	○	○	○	○
	㉜ 浦和道場支店	さいたま市桜区道場 1 丁目 5 番 1 号	048(865)1181(代)	○	○	○	○	○
	㉝ 東浦和駅前支店	さいたま市緑区東浦和 1 丁目 15 番地 5	048(875)6611(代)	○	○	○	○	○
	㉞ 岩槻支店	さいたま市岩槻区城南 4 丁目 1 番 46 号	048(798)8821(代)	○	○	○	○	○
春日部市	㉟ 一ノ割支店	春日部市一ノ割 1 丁目 11 番 18 号	048(736)3111(代)	○	○	○	○	○
	㊱ 春日部支店	春日部市谷原 3 丁目 16 番地 12	048(738)3333(代)	○	○	○	○	○
上尾市	㊲ 上尾支店	上尾市柏座 2 丁目 7 番 12 号	048(776)1731(代)	○	○	○	○	○
富士見市	㊳ みずほ台支店	富士見市東みずほ台 2 丁目 8 番 11 号	049(254)3452(代)	○	○	○	○	○
桶川市	㊴ 桶川支店	桶川市鴨川 1 丁目 6 番 7 号	048(787)3333(代)	○	○	○	○	○
宮代町	㊵ 宮代支店	南埼玉郡宮代町中央 3 丁目 3 番 1 号	0480(33)7011(代)	○	○	○	○	○
久喜市	㊶ 鷲宮支店	久喜市葛梅 1 丁目 19 番地 1	0480(58)3201(代)	○	○	○	○	○
	㊷ 栗橋支店	久喜市栗橋中央 1 丁目 9 番 23 号	0480(52)1122(代)	○	○	○	○	○
	㊸ 久喜支店	久喜市青毛 3 丁目 1 番地 6	0480(25)2281(代)	○	○	○	○	○
ふじみ野市	㊹ ふじみ野支店	ふじみ野市苗間 1 丁目 15 番 21 号	049(267)4501(代)	○	○	○	○	○
鴻巣市	㊺ 鴻巣支店	鴻巣市本町 2 丁目 1 番 37 号	048(541)3600(代)	○	○	○	○	○

ローンセンター・店舗外 ATM 一覧

	店舗名	住所	電話番号
46	川口ローンセンター	川口市栄町 3 丁目 9 番 3 号本店 2 階	048(287)3815(代)
47	春日部ローンセンター	春日部市谷原 3 丁目 16 番地 12	048(733)5700(代)
48	柳崎支店埼玉協同病院出張所	川口市木曾呂 1317 番地埼玉協同病院内	-

自動機器設置状況

(単位：台)

	平成 29 年度	平成 30 年度
ATM	117	117
うち店舗外	1	1
うち為替振込可能	116	116

大正

13. 3. 有限責任川口鋳物信用販売購買利用組合創立

昭和

5. 5. 有限責任川口信用組合と改称
 6. 8. 産業組合法による市街地信用組合に改組
 18. 4. 市街地信用組合法に準拠する川口信用組合に改組
 18.10. 総代制を導入、総代 48 名選出
 24. 9. 東京手形交換所加盟（埼玉銀行代理交換）
 25. 2. 初の支店本町支店開設
 25. 2. 西川口信用組合と合併
 合併により西支店、仲町支店、飯塚支店を継承
 25. 4. 中小企業等協同組合法に基づく信用協同組合に改組
 26.10. 信用金庫法に基づく川口信用金庫に改組
 27.10. 本店事務所を新築
 29. 3. 内国為替事務取扱開始
 31. 9. 本店業務部を本店営業部と改称
 33.11. 創立 35 周年記念式典挙行
 34. 3. 全国信用金庫連合会代理業務取扱開始
 34.10. 中小企業退職共済事業団代理業務取扱開始
 36. 6. 埼玉県税収納代理店事務取扱開始
 42. 3. 川伸商事株式会社設立
 42. 6. 日本銀行と当座取引開始
 42. 9. 新本店新築落成
 43. 7. 日本銀行歳入代理店事務取扱開始
 48. 5. 創立 50 周年記念式典開催
 創立 50 周年記念顧客謝恩観劇会開催
 50. 1. オンラインシステム開始（信金東京共同事務センターに加入）
 52. 8. 当座預金オンライン移行全店完了
 52. 9. 現金自動支払機（CD）設置（本店営業部、本町東支店）
 54.10. 地域イベント川口たたら祭り協賛、流し踊りへかわしん連として初参加
 55. 3. 外貨両替商業業務認可（本店営業部）
 55. 5. 新総合オンラインシステムへ移行
 55.10. しんきんオンラインネット提携取扱開始
 58. 4. 証券業務取扱開始（国債窓口販売）
 60. 3. 市場金利連動型預金（MMC）の取扱開始
 60.10. 10 億円以上の定期預金金利自由化
 60.11. 日光研修所兼保養所を開設
 63. 5. 第 3 次オンラインシステム開始

平成

1. 1. 本店新館落成
 3. 8. ALM システム導入（委員会発足）
 4. 2. 信金テレサービス（ファームバンキング）取扱開始
 5.10. 外国為替業務の取扱開始
 6. 3. 創立 70 周年記念講演会開催
 6.11. 創立 70 周年記念式典開催、創立 70 周年記念役員祝賀会開催
 7. 4. 女子渉外の年金アドバイザー制度の導入
 8.10. 年金友の会「ひまわり会」発足
 10.12. 投資信託窓口販売業務開始
 12.12. しんきん ATM ゼロネットサービス開始
 13. 3. サッカーくじ toto の換金業務開始
 13. 4. 損害保険窓販開始
 14.11. 芝ローンセンター開設
 15. 4. リレーションシップバンキングへの取組開始
 15. 6. 春日部ローンセンター開設
 15.11. 創立 80 周年記念講演会開催
 16. 3. 創立 80 周年記念祝賀会開催

16. 5. ISO14001 認証取得
 17. 4. 個人向けインターネットバンキング取扱開始
 18. 3. 赤井支店新築移転
 19. 5. 鳩ヶ谷支店新築オープン
 20.12. 川口マラソン大会への協賛
 創立 85 周年記念講演会開催
 21. 4. 「しんきん電子携帯マネーチャージサービス（Edy）」取扱開始
 21.10. インターネットによる外貨両替取扱開始
 21.11. 上尾支店新築移転オープン（太陽光発電システム導入）
 21.12. 預貸和 1 兆円達成
 22. 4. 緊急連絡／安否確認システム導入
 23. 4. 東日本大震災復興支援定期預金「希望」発売
 23. 6. 山口会長が旭日双光章を受章
 23. 8. 震災遺児支援定期預金「こどもは宝」発売
 23. 8. 日本工業大学への寄付講座「創業の基礎」贈呈式を実施
 23.10. 東北復興応援の旅実施
 24. 2. AED を全店設置
 24. 3. 「エコ通勤優良事業所」として認証・登録
 24. 3. かわしんフリーローン「自由自在」取扱開始
 24. 4. 総務部社会貢献課新設
 24.10. 職員による東北被災地へのボランティア活動実施
 25. 2. 電子記録債権サービス開始
 25. 3. 東浦和駅前支店リニューアルオープン
 25. 4. 営業推進部地域産業支援課新設
 25. 5. 野球部が第 35 回東日本軟式野球大会で優勝
 25. 7. 献血活動にて厚生労働大臣表彰受賞
 25. 9. 第 1 回新現役交流会開催
 25.10. 3 店舗に川信会発会
 (21 日鳩ヶ谷支店・23 日岩槻支店・25 日赤井支店)
 25.10. 国土交通省から「都市緑化功労者表彰」受賞
 26. 2. 創立 90 周年記念年金旅行実施
 26. 3. 創立 90 周年記念祝賀会開催
 26. 3. アンパンマンキャラクター IC キャッシュカード導入
 26. 3. 関東財務局より、地域密着型金融に関する取組みへの顕彰状受賞
 27. 1. 投信インターネットサービス取扱開始
 27. 3. 2 店舗に川信会発会
 (9 日東本郷支店・19 日ふじみ野支店)
 27. 3. 鴻巣支店新設オープン
 27. 3. 鴻巣パンジーマラソンに協賛し職員が参加
 27. 7. 南越谷支店「川信会」発足
 27. 7. 一ノ割支店「川信会」発足
 27.11. 日下理事長が旭日双光章を受章
 28. 3. 浦和道場支店「川信会」発足
 28. 4. 川口中央支店新築移転オープン
 28. 4. 東浦和駅前支店「川信会」発足
 28. 5. 第 1 回経営課題解決に向けた相談会開催
 28. 7. 春日部支店「川信会」発足
 28. 9. みずほ支店「川信会」発足
 28. 9. 第 4 回新現役交流会開催
 28.12. 新本店グランドオープン
 29. 2. 日本政策金融公庫と業務提携・協力に関する覚書を締結
 29. 3. 浦和中尾支店「川信会」発足
 29. 4. 蒲生西口支店新装グランドオープン
 29.10. 信金中央金庫を信託会社とする信託契約代理業務の取扱いを本店営業部にて開始
 29.11. 芝ローンセンターが本店 2 階に移転、川口ローンセンターに名称変更
 29.11. 「来店不要型ローン」取扱い開始
 30. 3. 川口中央支店「川信会」発足
 30.10. 川信会ビジネスマッチング交流会開催
 30.11. 蒲生西口支店「川信会」発足



課題解決のご相談は かわしんにお任せください

かわしんがライフステージに適したご提案をいたします！

創業期

創業に関するご相談

新たに事業を始めたい方



- 事業計画や資金計画(補助金活用含む)に関するサポート
- 日本政策金融公庫、信用保証協会との協調によるサポート
- 創業後のご相談

成長期

公的施策の活用支援

新事業の展開を検討している方、
経営課題を抱える方



- 各種補助金、助成金のご案内
- 外部専門家との連携サポート

ビジネスマッチング

事業拡大、販路開拓を検討している方



- ビジネス交流会等のご案内
- マッチングイベントの開催(彩の国ビジネスアリーナ等)
- 当金庫エリア内、信金ネットワークによるマッチングの実施

成熟期

海外展開に関するご相談

貿易取引、海外投資を検討している方



- 信金中央金庫との連携による現地情報の提供、海外展開サポート
- 公的機関等との連携による海外展開サポート

承継期

M&Aに関するご相談

事業拡大、事業譲渡を検討している方



- 外部連携先・専門家との連携によるM&A案件の受付、契約

事業承継に関するご相談

後継者問題を抱える方



- 外部連携先・専門家との連携サポート

かわしんは地元企業の
発展を応援しています



理事長

おかげさまで95周年

95th
ANNIVERSARY



消費者ローンに関するご質問にお答えするフリーダイヤルと
ホームページを開設しておりますのでご利用ください。

フリーダイヤル ☎ 0120-12-6000 <http://www.shinkin.co.jp/ksb/>



この冊子は環境にやさしい植物油インキ
を使用しております。



JQA-EM 4039

本部及び本店営業部